

⑦ 発 電

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
発 電 量		KWh 100万	974	980	1,012	1,079	1,202	1,331
(内 水 力)		"	723	708	1,001	1,102	1,134	
1人あたり発電量		KWh	65	76	77	85	88	95
発 電 能 力		KW 1000	281		281	281	421	421
(内 水 力)		"			195	195	335	
電 力 消 費 量		KWh	817	869	882	858	992	

出所：国連

⑥ 運 輸

① 道 路

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
道 路 延 長		Km	42,247					
舗装道路延長		Km						
舗 装 率		%	46.2					

出所：IRF

② 鉄 道 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
車 両 数		台						
機 関 車		"		309		306		
客 車		"		1,050		1,438		
貨 車		"		4,565		3,886		
輸 送 量		100万						
旅 客		人・Km (100万)	2,938	3,501	2,778	2,898	3,004	
貨 物		トン・Km (100万)	566	321	510	296	283	

出所：国連

② 自動車保有台数

種別	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
乗 用 車		1000台	88	90	90		94	
1台あたり人口		台/人			152.3		146.4	
商 用 車		1000台	45	48	48		49	

*警察その他政府の保安機関が使用する事を含む。

出所：国連

③ 海 上 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
値 荷		1000t	1,292	1,177	1,120	1,150	1,552	
揚 荷		"	4,106	3,405	3,034	2,965	4,353	
人 港 船 隻		"		2,261	2,474		5,230	

出所：国連

④ 航 空 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
旅 客		人・Km (100万)	112	552	253	269	305	
貨 物		トン・Km (100万)	1.8	2.9	2.6	2.0	2.4	
郵 便		"	0.6	0.7	0.4	0.3	0.3	

出所：国連

(7) その他の社会指標

① 1人あたりカロリー、蛋白質摂取量

項目	1974		1975		1976		1977	
	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合
カロリー		%		%		%		%
蛋白質	g	%	g	%	g	%	g	%

ス
リ
・
ラ
ン
カ

③ 出生時平均余命、出生率、死亡率

調査年	単位	男	女	平均
出生時平均余命 1977年	才			69
人口1,000人当 りの普通出生率	%	1960	56	
		1977	26	
人口1,000人当 りの普通死亡率	%	1960	9	
		1977	6	

出所：国連

② 在学率・文盲率

単位：(%)

項目	1963			1973			1975					
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均
在学率	79.8	79.5										
文盲率	14.6	56.1										

(15歳以上人口100に対する文盲人口の割合)

出所：国連

④ 病院施設

項目	年	単位	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
病院数						456			
病床数		ベッド				39,752			
1ベッド あたり人口		人				535			
医師1人 あたり人口		人			4,007				6,250

出所：国連

⑤ 新聞発行・新聞用紙消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
人口1000人当 り新聞発行数		部			42			14
新聞用紙消費 量(総計)		1000t	18.3	10.1	7.7	6.5	2.0	
1人あたり消費 量		kg	1.5	0.8	0.6	0.5	0.1	

出所：国連

⑥ 放送受信機・電話普及率

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
ラジオ		台/1000		480	505			
人口1000人当 りラジオ保有台 数		台		35	37			
テレビ		台/1000						
人口1000人当 りテレビ保有台 数		台						
電話普及台数 (人口1000人当 り)		台	0.5	0.5		0.5		

※1 資料・アフリカ電話電信会社

※2 推定数(許可制度だが)

出所：国連

⑦ 水道、電気、住宅

項目	年	単位	調査年	1970	1975	備考
浄水受給者の 対人口比	%				20	
電灯普及率	%		1971	9.0		
1部屋当り 平均人員	人		1971	2.5		

出所：国連

II 経済技術協力

(1) 開発途上国の援助受取高と債務

① 開発途上国援助受取高

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
総受取高 Net	117.4	147.6	153.2	174.4	331.2
政府開発援助受取高 Net	80.75	174.7	166.1	186.8	341.1
(内) 二国間援助受取高 Net	58.21	100.00	94.9	119.4	216.3
技術協力受取実績 Net	16.66	25.72	33.53		

② 政府開発援助の条件(コミットメント)

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
O D A 計				187.06	318.4
贈 与				118.79	144.4
借 款				68.27	174.1
借款のグラントエレメント(G・E)%				67.85	66.7
ODAのグラントエレメント(G・E)%				88.26	91.8

③ 開発途上国の債務

単位：100万ドル

事 項	1975年末現在	1976年末現在	1977年末現在	1978年現在
1960~1977年贈与総受取高(累計)	285	412	506	
直接投資残高	60	60	65	
債務(支払ベース)				
総 計	626	703	779	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	334	359	450	
債務返済高				
総 計	129	127	137	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	17	18	20	
債務返済率	20			

ス
リ
・
ラ
ン
カ

② DAC 諸国の経済協力

① 経済協力総額

単位：100万ドル

区分	国名	単位：100万ドル								
		1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	
二 国 間 援 助 (ネ ット)	オーストラリア	1.0	11.9	-0.3	-2.9	4.5	9.0	2.5		
	オーストリア	*	*	*	*					
	ベルギー		*	*		*	0.3	*		
	カナダ	7.8	4.8	6.7	3.8	6.1	9.2	12.9		
	デンマーク	0.4	0.4	0.4	1.8	0.4	0.1	0.7		
	フィンランド					*	0.1	*		
	フランス	0.8	-0.2	1.4	1.0	16.5	-15.4	23.4		
	西ドイツ	11.3	-8.2	8.9	1.0	20.9	13.6	7.8		
	イタリア	-0.7	*	-5.0	-4.1	-0.3	1.1	-0.2		
	日本	4.6	5.9	12.6	5.6	10.5	14.3	8.5		
	オランダ	0.1		0.3	0.4	0.5	4.1	6.2		
	ニュー・ジーランド			*	*	*	1.5	0.7		
	ノールウェー	0.1	0.1	*	0.1	0.1	0.3	0.5		
	スウェーデン	-0.3	1.7	0.8	3.4	3.8	9.3	9.0		
	スイス	-0.1	0.8		-0.3	-0.2	-0.2	0.1		
イギリス	17.4	13.9	5.4	0.8	6.9	-35.0	-10.9			
米 国	10.0	15.0	20.0	24.0	2.0	15.0	21.0			
計		52.4	46.1	51.4	34.6	71.7	30.3	82.0		
国 際 機 関 (ネ ット)	AF. D. B.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.	1.5	2.7	3.9	3.6	2.9	6.2	5.5		
	CAR. D. B.									
	C. E. C.	1.1	*	*	1.9	2.6	12.2	4.8		
	E. I. B.									
	I. B. R. D.	-0.8	2.1	0.4	3.2	2.1	2.4	-0.2		
	I. D. A.	1.0	3.7	2.9	5.9	10.9	13.6	5.0		
	I. D. B.									
	I. F. C.									
	O.A.P.E.C.									
S.A.A.F.A.										
U. N.	3.9	5.0	3.8	6.7	6.1	19.9	24.9			
計		6.7	13.5	11.0	20.4	24.6	54.3	40.0		
O.P.E.C. (二国間)						21.0	63.6	32.0		
合 計		59.1	59.6	62.4	55.0	117.3	147.6	154.0		

② 政府開発援助

単位：100万ドル

区分	国名	単位：100万ドル								
		1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 (ネ ット)	オーストラリア	1.1	1.1	1.2	1.3	2.2	4.5	9.0	2.5	2.5
	オーストリア	*	*	*						*
	ベルギー	*	*	*			*	*	*	*
	カナダ	2.8	8.4	5.7	7.6	4.8	7.1	9.4	13.1	16.2
	デンマーク	1.9	0.4	0.4	0.6	1.8	0.4	0.2	0.7	0.9
	フィンランド						*	0.1	*	
	フランス				1.6	2.1	3.6	4.5	6.5	0.7
	西ドイツ	6.9	5.5	2.4	6.9	11.0	18.8	17.2	11.1	9.6
	イタリア	*	4.0	-0.1	-0.5	-0.5	-6.5	1.1	-0.2	0.8
	日本	3.2	3.2	7.4	4.8	3.8	10.5	16.1	10.9	18.6
	オランダ		0.1		0.5	0.4	0.5	4.1	6.2	12.0
	ニュー・ジーランド				*	*	*	1.5	0.7	0.2
	ノールウェー	0.1	0.1	0.1	*	0.1	0.1	0.3	0.3	3.8
	スウェーデン	0.1	*	1.7	0.8	3.4	3.8	9.3	9.0	11.7
	スイス	*	*	*	0.2	*	*	0.1	0.2	0.2
イギリス	10.2	10.3	15.8	8.3	4.0	2.1	4.1	8.1	5.1	
米 国	20.0	10.0	14.0	17.0	9.0	7.0	23.0	26.0	37.0	
計		46.3	43.1	46.6	49.1	42.3	58.1	100.0	94.9	119.3
国 際 機 関 (ネ ット)	AF. D. B.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.			0.6	2.2	2.2	2.8	6.1	4.3	9.2
	CAR. D. B.									
	E. E. C.		1.1	*	*	1.9	2.6	12.2	4.8	6.0
	I. D. A.	0.2	1.0	3.7	2.9	5.0	10.9	13.6	5.0	11.1
	I. D. B.									
	O.P.E.C.									8.1
	S.A.A.F.A.									
U. N.	3.5	3.9	5.0	3.8	6.7	6.1	19.9	24.9	27.9	
計		3.7	6.0	9.3	8.9	15.8	22.4	51.8	39.0	62.3
O.P.E.C. (二国間)								23.0	32.0	5.2
合 計		50.0	49.1	55.9	58.0	58.1	80.5	174.8	165.9	186.8

③ 技術協力

単位：100万ドル

区分	国名	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 (ネ ット)	オーストラリア	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.6
	オーストリア	-	-						*	*
	ベルギー	*	*	*			*	*	*	
	カナダ	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	デンマーク	*	*	*	*	*	*	*	0.2	0.8
	フィンランド							*	0.1	*
	フランス									
	西ドイツ	1.4	1.7	2.0	2.8	3.4	7.5	8.6	5.8	4.8
	イタリア	*	*	*		*	*	*	*	*
	日本	0.5	0.4	0.7	0.6	0.9	1.3	1.7	1.6	2.4
	オランダ		0.1	0.1	0.3	0.4	0.4	0.7	1.0	3.0
	ニュー・ジーランド				*	*	*	0.1	0.1	0.1
	ノールウェー	*	*	*	*	*	*	*	*	0.1
	スウェーデン	*	*	0.1	0.7	0.2	0.1	*	0.9	0.4
スイス			*	*	*	*	*	*	*	
イギリス	0.9	0.9	1.0	1.1	1.5	1.1	1.5	1.2	1.3	
米 国		*		*	*	*	*	2.0	1.0	
計		3.3	3.5	4.2	5.8	6.8	11.0	13.3	13.5	14.7
国際機関 (ネ ット)	A.S.D.B.								0.1	0.5
	E. E. C.									
	I. D. B.									
	O.A.P.E.C.									
	S.A.A.F.A.									
	U. N.	2.4	3.2	3.3	3.3	5.1	5.5	12.3	9.9	9.7
計		2.4	5.2	3.3	3.3	5.1	5.5	12.3	10.0	10.2
合 計		5.7	6.7	7.5	9.1	11.9	16.5	25.6	23.5	24.9

③ 共産圏諸国からの開発援助受取額

単位	1954年～1971年	1972	1973	1974	1975	1976	1977
100万 ドル	175	45	16	20	59	2	

④ 政府貸付

単位：100万ドル

区分	国名	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 (ネ ット)	オーストラリア			*						
	オーストリア	*	*	*						
	ベルギー									
	カナダ	2.3	2.7	2.3	4.7	1.2	4.8	5.6	7.0	5.5
	デンマーク	1.9	0.4	0.4	0.6	1.7	0.4	0.2	0.5	0.1
	フィンランド									
	フランス				1.6	2.1	1.4	3.6	4.6	0.7
	西ドイツ	4.1	2.5	0.2	2.5	3.4	9.0	6.7	0.8	4.5
	イタリア		4.0	-0.2	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	-0.2	-0.2
	日本	2.7	2.3	6.7	3.8	2.9	8.3	14.3	7.1	13.7
	オランダ								1.7	3.8
	ニュー・ジーランド									
	ノールウェー									
	スウェーデン									
スイス										
イギリス	6.9	7.1	10.4	7.2	2.4	1.0	2.5	1.0	-1.8	
米 国	20.0	8.0	8.0	15.0	8.0	2.0	20.0	22.0	35.0	
計	57.9	27.0	27.8	55.1	21.4	26.6	52.6	44.5	59.3	
国際機関 (ネ ット)	AF. D. F.									
	A. F. E. S. D.									
	AS. D. B.			0.6	2.2	2.2	2.8	6.1	4.2	8.7
	CAR. D. B.									
	E. E. C.									
	I. D. A.	0.2	1.0	3.7	2.9	5.0	10.9	13.6	5.0	11.1
I. D. B.										
O.P.E.C.									8.1	
S.A.A.F.A.										
計	0.2	1.0	4.3	5.1	7.2	13.7	19.7	9.2	27.9	
OPEC(二国間)								22.0	32.0	5.2
合 計	58.1	28.0	52.1	40.2	28.6	40.3	94.3	55.7	92.4	

スリ・ランカ

(4) わが国の二国間経済協力

① 年別、援助形態別、経済・技術協力(DACベース)

単価：1,000ドル

ス リ ・ ラ ン カ	援助形態 / 暦年	政 府 開 発 援 助				その他政府資金及び民間資金の流れ			総 合 計	
		贈 与		政 府 貸 付	計	直 接 投 資 等	輸 出 信 用	計		
		無償資金協力	技術協力							計
60			97	97		97	127	-4	123	220
61			101	101		101	21	-4	17	118
62			118	118		118	599	427	826	944
63			167	167		167		-119	-119	48
64			221	221		221	21	122	143	364
65			134	134		134		-131	-131	3
66			160	160	6,774	6,934		207	207	7,141
67			189	189	2,213	2,402	420	5,679	6,099	8,501
68			233	233	4,874	5,107	104	2,863	2,967	8,074
69			520	520	2,700	3,220	30	2,060	2,090	5,310
70		500	440	940	2,280	3,220	40	1,360	1,400	4,620
71			740	740	6,670	7,410		-1,530	-1,530	5,880
72		310	640	950	3,840	4,790	820	6,990	7,810	12,600
73			940	940	2,880	3,820	1,390	360	1,750	5,570
74		910	1,270	2,180	8,320	10,500	40	-80	-40	10,460
75		130	1,670	1,800	14,280	16,080	3,800	-5,590	-1,790	14,290
76		2,180	1,600	3,780	7,130	10,910	140	-2,590	-2,450	8,460
77		2,540	2,370	4,910	13,660	18,570	280	2,820	3,100	21,670
78		8,520	3,120	11,640	27,820	39,460	-30	-3,830	-3,860	35,600
総 計		15,090	14,730	29,820	103,441	133,261	7,602	9,010	16,612	149,873

② 直接借款（1979年12月末現在）

No.	事 項	根 拠 協 定	金 額 (百万円)	対 象	返済期間(年) (内は据置期間)	金 利(%)	貸出機関	備 考	G・E (%)
	円借款（第1次）	1966. 1.14 交換公文	1,800	肥料、自動車及び部品、繊維品	25（7）	5.5	輸・市銀	タ イ フ	33.20
	円借款（第2次）	1966. 9. 9 交換公文	1,800	工業用原材料及び機械、完成繊維製品	7（2）	5.5	輸・市銀	タ イ フ	15.64
	円借款（第3次）	1967. 9.22 交換公文	1,800	肥料、工業用原材料及び繊維、自動車等	10（4）	5.25	輸・市銀	タ イ フ	22.75
	円借款（第4次）	1968. 9. 3 交換公文	1,800	肥料、繊維品、自動車及び部品等	18（5）	5.25	輸・市銀	タ イ フ	30.15
	円借款（第5次）	1969.10.24 交換公文	1,800	肥料、農業用機器、鋼板等	18（5）	5.25	輸・市銀	タ イ フ	30.15
	円借款（第6次）	1971. 2. 9 交換公文	1,800	肥料、鋼板、タイヤ及びチューブ等	20（7）	5.0	輸・市銀	タ イ フ	34.77
	円借款（第6次追加）	1971. 5.17 交換公文	1,080	窒素肥料	20（7）	5.0	輸・市銀	タ イ フ	34.77
	円借款（第7次）	1972. 2. 4 交換公文	3,500	肥料、車輛及び部品、鋼板等	20（7）	4.75	輸・市銀	タ イ フ	36.59
	円借款（第8次）	1973. 7.20 交換公文	3,500	肥料、鉄鋼、タイヤ、チューブ等	25（7）	4.5	輸 市銀	LDCアンタイド	40.99
	円借款（第9次）	1974. 8.17 交換公文	4,200	肥料、自動車、鉄鋼等	25（7）	4.0	輸 銀	LDCアンタイド	44.89
	円借款（第10次）	1975. 6.13 交換公文	4,500	鉄鋼、肥料、タイヤ、チューブ等	25（7）	4.0	輸 銀	LDCアンタイド	44.89
	円借款（第11次）	1976.10.14 交換公文	4,500	肥料、プラスチック材料、ゴム製品等	30（10）	3.5	基 金	LDCアンタイド	53.36
	円借款（第12次）	1977. 9.12 交換公文	4,500	商品援助	30（10）	3.5	基 金	LDCアンタイド	53.36
	円借款（第13次）	1977.12. 2 交換公文	1,940	電話網拡充計画	30（10）	3.5	基 金		53.36
	円借款（第14次）	1978. 3.17 交換公文	1,800	インギニミチャ灌漑ダム計画	30（10）	3.5	基 金	LDCアンタイド	53.36
	円借款	1978. 7.21 交換公文	5,500	商品借款	30（10）	3.0	基 金	一般アンタイド	57.62
	円借款	1979. 8.24 交換公文	3,200	商品借款	30（10）	2.75		一般アンタイド	59.75
	円借款	1979. 9.11 交換公文	5,800	海運増強計画	30（10）	3.25		LDCアンタイド	55.49

スリ・ランカ

ス
リ
・
ラ
ン
カ

③ 延払い信用枠(クレジット・ライン)

対 象	成 立 年 月	金 額 (百万ドル)	金 利 (年利) %	返 済 期 間 (年)	備 考

④ 無償資金協力(1979年 9月末現在) 交換公文ベース

イ) 贈 債

単位: 100万ドル

交換公文締結日	総 額	供 与 期 間	年間供与額	契約認証総額	支払済額	義務履行率(%)	備 考

ロ) 一般無償協力

単位: 100万円

年度	締 結 日	案 件 名	金 額
73	1973.10.19	遠用漁業訓練用漁船	95
74	1974. 3.29	遠用漁業訓練用漁船(追加)	60
77	1977. 9.12	ペラデニア教育病院・医療機材	1,100
78	1978. 9. 1	ペラデニア教育病院建設、医療機材	800
	1978. 9.14	住宅10万戸建設のための小形棒鋼供与	1,500
79	1979. 7.25	TV放送局施設建設、機材	2,000

ハ) 食糧増産援助

単位: 100万円

年度	締 結 日	案 件 名	金 額
77	1977.11.21	肥料	600
78	1978.11. 1	肥料	1,500

ニ) KR食糧援助

備考: (建債) S=米ドル 貸=建債(円及びドル)

年度	締 結 日	案 件 名	建 債	金額(100万円)	金額(1000ドル)
69	1969.11. 2	農 業 物 資 (肥料、農機具)	貸	180	500
71	1971. 6. 3	ビルマ米 4,091t	貸	108	300
73	1973. 9.11	農 業 物 資 (農機具)	Y	154	564
75	1975.12. 9	タ イ 米	S	336	1,130
76	1976. 7.15	農 業 物 資 (肥料)	Y	308	1,039
76	1977. 1.11	農 業 物 資 (肥料)	Y	647	2,353
	合 計			1,733	

ホ) 拠出金・災害救済等

単位: 100万円

年度	支 出 日	内 容	金 額	備 考
78	1978.12.16	綿布、カンズメ、テント 医薬品	60	日本赤十字社

ト) 債務救済 単位: 100万円

年度	締 結 日	金 額
78	1979. 3.24	329

⑤ 技術協力 (DACベース)

イ) 年別, 形態別技術協力

単位: 1,000ドル

年	形態	研修員受入		留学生受入		専門家派遣		調査団派遣		協力隊派遣	研究協力	機材供与	その他	技術協力経費			
		金額	人数	金額	人数	金額	人数	金額	人数					合計	内ICA分		
																全体	ICA分
1976		774.57	201	128.48	17	436.49	47	16	75.22	20	6		5.62	122.79	58.98	1,600.16	1,080.73
1977		1,022.17	213	157.94	18	591.68	45	25	375.44	59	41		7.49	213.00	89.00	2,367.52	1,550.85
1978		1,262.22	212	192.20	15	540.65	13	6	765.75	83	65		9.12	188.92	157.86	3,116.92	2,197.80
1979																	

スリ・ランカ

ロ) 国際協力事業団技術協力実績 (DACベース, 1975年~1978年)

㊦ 事業形態別経費実績

単位: 1,000円

年(暦年)	項目	合計	研修員受入	専門家派遣	調査団派遣	研究協力	機材供与	協力隊派遣(学生)	その他
1975		354,561	119,967	94,664	4,291		121,518		14,121
1976		296,767	146,726	85,931	17,330		32,551		14,229
1977		416,414	159,105	94,728	89,604		57,069		15,908
1978		462,570	166,343	84,819	149,800		59,763		21,845
1979									

㊧ 分野別研修員受入

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public	Agriculture	Industry		Trade	Education	Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning	Utilities		Construction	Others						
1975		105	11	5	14	36	2	18	5	1	3	10		350.8
1976		101	10	4	7	33	4	14	5	2	5	13	4	400.0
1977		106	6	5	8	24	4	22	4		3	21	9	381.5
1978		106	6	5	16	21	3	18	4		5	17	11	369.6
1979														

㊨ 分野別専門家派遣

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning	Utilities		Construction	Others		Teachers	Others				
1975		19		2		16						1			156.5
1976		16		1	1	9	2					3			119.3
1977		25			2	18						4		1	111.6
1978		6				3					1		2		22.5
1979															

① 分野別調査印及び期間派遣

項目 年 (※年)	総入数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Indust		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	4				4									2.8
1976	6					6								2.8
1977	41			15	5	13	6							30.0
1978	65			20	32	4		5			4			72.6
1979														

III 一般事情

① 開発計画

ジャワラダナ政権による初の公共部門中期5カ年計画であるPublic Investment 1979 - 85が公表されているところその目標としては、①雇用創出の増大を最優先とし、貯蓄と投資増大による高成長を達成するとし、具体的プロジェクトとしては、マハベリ開発計画の完成、フリートレードゾーンの開発、都市再開発、住宅計画がその中心となっている。

なお78～83年のGDPの年平均成長率目標は名目13.3、実質5.5%を見込んでいる。

② 年間気温

・スリランカ - コロンボ 年間気温表

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温	26.2	26.4	27.1	27.7	27.9	27.4	27.1	27.2	27.1	26.5	26.2	26.1
降雨量(mm)	100	95	105	240	412	209	110	175	165	380	380	130

③ 教育

スリ・ランカ教育制度は、義務教育9年(6才～14才、初等5年、後期初等4年)、高等2年、大学となっている。

後期初等課程における国家学力検定試験の合格者(National Education Certificateが与えられる)が次の高等課程に進み、この課程での検定試験の合格者(National Higher Education Certificateが与えられる)が成績順で大学入学を許可される。

文盲率 12% (1970年、世銀資料)

④ 医療(1974年、スリ・ランカ統計局調)

(f) 医師・医療従事者数

8,596人

(g) 医師1人当り人口

6,064人

(h) 病院・医療施設数

701人

(e) 保健・衛生事情

国立の医療施設が一応整っているほか、私立の診療所が普及している。

⑤ 労働事情(1975年、スリ・ランカ中央銀行ブレティン1976年4月号)

(f) 労働人口 4,957千人 全人口に占める割合 36.4%

(g) 失業人口 985千人 失業率 19.9%

⑥ 祝祭日(1978年)

※ 1月14日 Tamil Thai Pongal Day (ヒンドゥ教祭日)

※ 2月4日 Independence Commemoration Day (独立記念日)

※ 2月20日 Eid-i-Milad-un-Nabi (回教祭日、マホメット生誕日)

3月7日 Maha Sivaratri Day (ヒンドゥ教祭日)

※ 3月24日 Good Friday (キリスト教祭日)

※ 4月12日 The Day prior to the Sinhara and Tamil New Year Day

※ 4月13日 Sinhara and Tamil New Year Day

4月14日

5月1日 May Day

※ 5月21日 Wesak Poya Day (仏教祭日、5月の満月の日。この日に仏陀が生誕、成仏、入滅した由来により仏教徒にとって最も重要な祭日)

※ 5月22日 The Day following the Wesak Poya Day

5月22日 The Republic Day (共和制記念日)

※ 9月5日 Eid-ul-Fitr (回教祭日、断食月明けの祭日)

※ 10月30日 Deepavali Festival Day (ヒンドゥ教祭日)

※ 11月12日 Eid-ul-Azha (回教祭日、犠牲祭)

12月25日 Christmas Day (キリスト教祭日) & Poya Day

(注) ※印は毎年日付が変る。なお、毎月満月の日はPoya Dayといわれ、上記祭日に加え、休日指定されている。1978年のPoya Dayは次の通り。

1月25日、2月22日、3月24日、4月22日、6月20日、12月14日、7月19日、8月17日、9月16日、10月15日、11月14日、12月14日

⑦ 条約関係その他

- (f) 貿易取極(1952年9月6日発効)
- (g) 二重課税防止条約(1968年9月22日発効)
- (h) ネゴンボ漁業訓練センター設立協定(1961年5月20日発効)
- (i) デワフワ村落開発計画協定(1970年10月19日発効)
- (j) スリ・ランカ高等水産講習所設立協定(1974年4月16日発効)

⑧ 日本人学校

地 域	小 学	中 学	合 計	教 師 数	創 立 年 月
コロンボ	19	7	26	7	昭和41年9月

⑨ 電気事情

	周波数	相数	電 圧	配線数	電気時計 の使用
Amparai	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	可 能
Anuradhapura デスラダプラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Badulla バドゥラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Batticaloa バチカロア	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Colombo コロンボ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Dehiwata(Mt.Lavinia) デエイブラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Galle ガール	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Jaffna ジャーフナ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Kalutara カルクラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Kandy カンディ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Kollonnawa	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Kotte コッテ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Kurunegala クルネガラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Matale マタレ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Matara マタラ・ドンドラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Moratuwa モラッパ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Neqombu ネゴンボ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Nuwara Eliya スバラ・エイリア	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Panadura ラトナブラ	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Rathapura	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Trincomalee トリンコマリア	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	
Wattala	a.c. 50	1.3	230/400	2.4	

1. 二次配線のニュートラルワイヤーは接地している。

2. 電気器具に付属した電気コードにはアース線が必要である。

3. そ の 他

○ラジオ 中波 短波 FM ○1次配電電圧 1.1KVおよび3.3KV

○低圧配電 5相4線式

ス
リ
・
ラ
ン
カ

タ

イ

夕 イ

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	1,416,853	2,601(155)	288,553	206(10)	368,996	257(16)	411,855	292(29)	2,486,257	3,356(210)
2. 専門家・調査団	4,127,799	1,205	681,076	238	1,051,403	267	1,768,331	308	7,628,609	2,018
(1) 専 門 家	3,176,162	679	304,944	74	377,590	83	701,626	76	4,560,322	912
(2) 調 査 団	951,637	526	376,132	164	673,813	184	1,066,705	232	3,068,287	1,106
3. 協 力 隊										
4. 機 材 供 与	2,985,546		294,938		1,061,350		720,122		5,061,956	
5. そ の 他	20,881		29,501		36,877		39,985		127,244	
合 計	8,551,079		1,294,068		2,518,626		2,940,293		15,304,066	

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																人数累計 (人)	経費累計 (千円)
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学工業	公益事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子力	経営技術	教 育	行 政	そ の 他		
研 修 員 受 入	702(25)	237(28)	196(5)	32	45(1)	176(12)	37	108	215(12)	279(21)	439(19)	33(26)	72(9)	195(2)	440(31)	150(19)	3,356(210)	2,486,257
調 査 団 派 遣	235	26	157	15	9	11	30	126	139	130	31			7	82	108	1,106	3,068,287
専 門 家 派 遣	135	59	90	4	7	25	9	49	13	98	315			29	61	18	912	4,560,322
協 力 隊 派 遣																		
機 材 供 与																		5,061,956
そ の 他																		127,244
合 計																		15,304,066

2. 事業別実績
研修員受入事業

年度	分野 計(人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
29年度	22(1)	15	6				1											174,273
30 "	25	6	4				1								14			
31 "	19	12	2	1	1		1					2						
32 "	52(1)	17	1	2	1		8(1)	1		1	4	4		1	10	2		
33 "	94(9)	28(2)	3				9(1)			3	2	2	3(2)		33	5	6(4)	
34 "	108(7)	44(1)	2	2			3		4	1	9	6(1)	5(5)		23	6	3	
35 "	157(9)	51	10	7(2)	2	1	6(1)		2	3	12(1)	8	4(3)	10(2)	18	10	13	
36 "	110(6)	11(2)	4(1)	4(1)			8		5	16	7	18	3(2)		19	9	6	
37 "	70(3)	8	2	6	2		3			4(2)	6	8	1(1)		16	10	4	
38 "	123(1)	32	8	19(1)	2		1		4	4	10	16			13	13	1	
39 "	111(11)	23	7	8			5		2	7	12	15(9)			7	22(2)	3	41,199
40 "	96(2)	13	3(1)	5			4	1	3	9	19	16	1(1)		2	13	7	48,065
41 "	165(8)	26	18	9		2	7	1	2	13(2)	28	17(1)	1(1)	1	12	24(4)	4	69,256
42 "	112(10)	20	4	6	1	1	4		5	11	16(2)	16(1)	2(2)	1	2	22(5)	1	70,276
43 "	171(12)	16(1)	10	8		2	15	1	9	8	20(6)	34	1	3	2	30(4)	12(1)	79,578
44 "	246(12)	36(2)	42	20(1)	2	2	20		10	17(2)	13(1)	33	4(2)	3	3	34(4)	7	104,700
45 "	170(24)	24(3)	10(4)	7		2	10(1)		8	14	13(5)	30(1)	2(2)	5(3)	4	29(2)	12(3)	89,044
46 "	180(9)	29(2)	6	12		6	10	2	5	10	15	38	3(3)	3	3	20(1)	18(3)	121,150
47 "	128(8)	28	3	11		1	9		4	5	12(1)	19(3)	1	11	2	12(1)	10(3)	111,987
48 "	132(16)	17(2)	6	7	1	3	5	1	9	10(3)	12(3)	19	1(1)	7(2)	6	14	14(5)	126,124
49 "	127(6)	18(1)	15	8	1	4(1)	7	2	3	11(2)	9(2)	19		1	1	20	8	137,032
50 "	170	29	20	10	4	2	5	8	11	8	14	22		6	6	20	5	238,527
51 "	191(10)	27	22(9)	18	5	2	6	5	6	14	10	32		5	2(1)	33	4	281,374
52 "	242(16)	40(1)	23(12)	15	4	14	7	8	11	22(1)	16	30(1)	1(1)	8	2	37	4	350,448
53 "	277(29)	74(8)	6(1)	11	6	3	21(1)	7	5	24	20	35(2)		8(2)	4(1)	47(8)	6	402,455
29～合計	3,298(210)	644(25)	237(28)	196(5)	32	45(1)	176(12)	37	108	215(12)	279(21)	439(19)	33(26)	72(9)	195(2)	440(31)	150(19)	2,455,488

専門家派遣事業

年度	分野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
30年度		1	1																131,846
31 "		10		7				3											
32 "		9	2	7															
33 "		1											1						
34 "		8	1					3				4							
35 "		21	4	3						2		9	3						
36 "		14	3									1	10						
37 "		7						3		1			1			2			
38 "		15					5	1				4	5						
39 "		10	2		1			2				1	1			1		2	42,245
40 "		15								1		9	4					1	51,469
41 "		14	3		2		1				1		5			1		1	66,712
42 "		34	2	4	7	2				6	9	4							103,245
43 "		19	4				1			6		6				1		1	146,136
44 "		19	2	8	2			1		4						1		1	204,149
45 "		20	1	1	6					1	2	5				1		3	217,374
46 "		18	2		4					1		9						2	203,604
47 "		19	6	7								5						1	200,470
48 "		5									1							4	178,113
49 "		16	3		3	2				2		2						4	244,548
50 "		19	1		1					6		8				2	1		266,818
51 "		23							2	7		9				1	4		151,567
52 "		33	5	5	8					6		2	4			3			193,223
53 "		25	3		3			4		6		2				3	4		300,772
30~合計		375	45	42	37	4	7	17	2	49	13	80	34			16	11	18	2,702,291

機材供与事業

№	機 材 名	機 材 供 与 先	年度	機材供与経費(千円)
1	脳外科用機材	Somdet Chaopray 病院	39	6,498
2	密輸捜査用機材	警察庁	40	481
3	熱帯医学調査用機材	国立医科大学	40	2,366
4	語学研修用機材	D.T.R.C	42	4,239
	(同上43年度支出分)		43	270
5	港湾水理観測機材	港湾局	45	2,113
6	水道水源調査用機材	公共事業局	46	8,992
7	窯業訓練用機材	工業省科学局窯業研究所	46	9,092
8	胸部外科研究機材	ナコルンラジマ病院	46	1,543
9	動物ワクチン機材	畜産局	48	14,381
10	がん対策用機材	チュラロンコン大学	48	1,323
11	巡回診療車他	保健省	49	17,409
12	視聴覚教育機材	交通省陸運局/家族計画委員会	49	1,286
13	自動車検査機材	交通省陸運局	49	6,323
14	電気技術者訓練機材	電気技術者訓練センター	50	11,983
15	淡水魚増養殖用機材	水産局淡水漁業部	51	9,120
16	河川公害機材	工業省	52	43,013
17	植物病理研究機材	農林省農務局病理部	52	20,472
	(同上53年度支出分)		53	487
18	高地農業開発機材	カセサート大学	53	20,593
19	歯科治療研究機材	バンコック首都圏保健所	53	7,601

技術協力センター事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人 数		経 費					
				継続	新規	千 円	千 円				
電気通信訓練センター ノモンクット王工科大学 協定等の種類：協定 (日本・タイ技術協力 協定) 署名年月日：35.8.24 協力期間：35.8～ 38.8 (延長)：38.8～ 40.8 実施調査：34.8.5～ 34.9.7 実施調査：44.9.9～ 44.9.23 巡回指導：47～ (パキスタン電通セン ター、タイ・モンクッ ト王工大、イラン電通 センターの3センター の巡回指導、経費 $\frac{1}{3}$ 、 世界一般参照)	昭和34年8月に実施調査団を派遣し、タイ側との 交渉と調査を行った結果、バンコック北郊12キロの ノンブリに技術訓練センターを設置することに決定し、 翌昭和35年8月24日に協定が正式調印された。こ の協定に基づきわが国より電話交換関係機器等総額、 6,832万円におよぶ機材を無償供与するとともに、技 術指導要員として理事長以下7名を派遣して昭和36 年2月に本センターは開設された。 本センターの訓練は、電気通信施設の設置、操作お よび保守の分野でタイ人研修員の養成を目的とし、タ イ国電気通信関係機関よりの委託生および一般よりの 公募生を対象として、(1)電話交換、(2)搬送電話、(3)マ イクロウェーブ、(4)電信無線通信、(5)テレビ放送、(6) ラジオ放送の6部門について訓練を行った。 本センターはタイ文部省の意欲的な教育開発計画に よって昭和39年に、ノンブリ電気通信大学に発展し た。さらに昭和45年には上記大学を中心に、タイ・ 西銀協力による工業高専およびUNESCO協力によ るノンブリ工業高専の3校を合わせ、モンクット王工 科大学となった。 本センターの協定協力期限が満了した昭和40年8 月以降は、わが国はタイ側において引継ぎ困難な部門 に限りコロンプラン専門家の派遣による協力を行っ た。 なお、同大学の学生数増員計画に伴うラカバン新校 舎移転計画に対し、わが国は約10億円の無償資金協 力を実施した。	34			×4	※1,438			48,749		
		35						7	5,010	19,570	
		36						7	1	15,752	
		37						7		16,022	2,033
		38						1	9	25,331	15,615
		39						10	※1	19,062	17,290
		40						10	×6	9,338	
		41							×6	...	
		42							×6	×4	...
		43							×4	×4	...
		44	実施調査			×2	...	×8		...	Ⓔ2,500
		45						×8	×4	...	29,150
		46						×8	×2	...	3,627
		47	巡回指導			(2)	(406)	×5	×5	...	66,047
		48	(同上48年 度支出分)				22	×7	×3	...	
49						×8	×5	...			
50						×5	×8	...			
51						×13		...	Ⓔ1,900		
52						×3	×2	...			
53						×1		...			

技術協力センター事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)																																												
				人数		経費																																															
				継続	新規	千円	千円																																														
	[カウンターパート受入]																																																				
	<table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>35</td> <td>36</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>42</td> <td>45</td> <td>46</td> <td>47</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>4人</td> <td>2人</td> <td>2人</td> <td>5人</td> <td>1人</td> <td>4人</td> <td>1人</td> <td>3人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>52</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>1人</td> <td>3人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	35	36	39	40	41	42	45	46	47	48	人数	4人	2人	2人	5人	1人	4人	1人	3人	4人	6人	年度	49	50	51	52							人数	5人	7人	1人	3人														
年度	35	36	39	40	41	42	45	46	47	48																																											
人数	4人	2人	2人	5人	1人	4人	1人	3人	4人	6人																																											
年度	49	50	51	52																																																	
人数	5人	7人	1人	3人																																																	
モンクット王工科大学	タイ政府は、昭和51年12月に日本政府に改めて	52				64																																															
協定等の種類：R/D	モンクット王工科大学の拡充計画に対する技術協力を	53	事前		5	} 5,897			9,382																																												
署名年月日：53.12.12	要請してきた。これを受けて、昭和53年8月に事前	53	実施		5			1		3,485																																											
協力期間：53.12.12～	調査団、同年11月に実施協議調査団を派遣し討議議																																																				
53.12.11	事録(R/D)に署名した。本大学の半導体、データ																																																				
事前調査：53.8.3～	処理、エネルギー変換の3分野の拡充計画につきプロ																																																				
53.8.17	ジェクト方式の協力を実施するものである。																																																				
実施協議：53.11.30～																																																					
53.12.14	<table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>4</td> </tr> </table>	年度	53	人数	4																																																
年度	53																																																				
人数	4																																																				
ウイルス研究センター	タイ国のウイルス性疾患による死亡率はきわめて高	36	実施調査		*3	*1,102			4,512																																												
協定等の種類：協定	く、これに対する医療施設の普及、環境衛生の改善が	37							38,005																																												
署名年月日：36.11.25	急務とされていた。このためタイ国政府はわが国に対	38					2	1	4,627																																												
協力期間：36.11～	し、ウイルス性疾患の撲滅のため医療技術協力を強く	39					3	4	9,700																																												
39.11	要請してきたので、わが国は同国にウイルス研究セン	40					3	2	8,916																																												
(延長)：39.11～	ターを設置する方針を決め、昭和36年6月調査団を	41					3		1,932																																												
41.5	タイ国に派遣し、バンコック市内に設置を決定、同年	41						*2	...																																												
実施調査：36.6.4～	11月協定が調印された。																																																				
36.6.24	この協定に基づき、わが国電子顕微鏡、血清等研究																																																				
	機器、組織培養法研究機器、動物実験機器等を無償供																																																				

技術協力センター事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)						
				人 数		経 費	人 数		経 費								
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円								
	<p>与し、その額は当初供与および追加供与の機材を含めて、これまで総額 4,500 万円に達している。</p> <p>本センターは、他の訓練センターとおもむきを異にし、研究所としてタイ国におけるウイルス性疾患に関する実態調査、臨床的検討および防疫対策の研究、ウイルス研究におけるタイ側職員の養成ならびにタイ国の研究機関の指導等を目的とするものである。</p> <p>研究内容としては、疫学調査、ウイルス性疾患の診断、診断用ウイルス抗原の製造、ウイルス株の保存、ウイルス性ワクチンの製造ならびに検定に関する研究、ウイルス性疾患の調査、その他衛生行政に関係あるウイルス研究等であり、訓練内容としては、ウイルス研究の基礎的技術としてウイルスの保存・取扱法、動物実験法、培養法、血清反応およびウイルス性ワクチンの製造ならびに検定法を教えている。</p> <p>本センターは、昭和39年11をもって当初の協定による協力期間を終了したが、タイ側の強い要望もあり、協力期間を昭和41年5月まで1年半延長した。</p> <p>昭和41年5月以降はコロポ計画によって専門家を派遣、また、昭和42年4月からは医療協力事業として協力を行った。</p> <p>[カウンターパート受入]</p> <table border="1" data-bbox="573 1241 862 1328"> <tr> <td>年 度</td> <td>36</td> <td>38</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>3人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> </table>	年 度	36	38	39	人 数	3人	1人	2人								
年 度	36	38	39														
人 数	3人	1人	2人														

タ
イ

技術協力センター事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
ソククラ道路建設技術 訓練センター 協定等の種類：協定 署名年月日：39.11.6 協力期間：39.11～ 43.11 開通式：43.11.14 事前調査：38.9～ (事業団予算にあらず) 実施調査：39.5.25～ 39.6.18 実施調査：42.12.14～ 42.12.28	タイ国では支線道路の開発がきわめて遅れており、これが同国の経済開発に大きな障害となっていた。このため、タイ国政府はその行政機構を改革して各地にパイロットプールを設立し道路建設を促進することとなった。東北部においてはオーストラリアの援助によりコンケンのパイロットプールを設置したが、ついで南部についても、パイロットプール設置のためわが国の援助を強く要請してきた。これに対しわが国は、昭和38年9月に予備調査団、昭和39年5月には実施調査団をそれぞれ派遣し、バンコック南方700キロのソククラ市にセンターを設置することに決定、同年11月6日に協定が調印された。 本センターの目的は、道路の設計、建設、維持ならびに道路建設に利用される機械の操作につき、タイ国人技術者に訓練と指導を与えることにあるが、これをサムロン～ナクウィー間約60キロの道路を利用、訓練過程において道路の建設が行われる点に特色がある。このため本センターでは建設機械の運転とその修理、整備に関する訓練をそれぞれ別のコースに分けて行い、高等学校卒業程度の訓練生に対して、各種建設機械を運転し、実際の道路建設にその技量を十分活用しうる技術者をつくりあげるとともに、これら機械の基礎的理論を実際に習熟した人材を養成することを主眼としているものである。	38	事前調査		(4)	...						
		39	実施調査		4	2,295		10	6,902	142,607		
		40						10	21,599	39,074		
		41						10	21,833	19,683		
		42	実施調査		*3	...		10	3	24,105	88,452	
		43						13	11,677	1,398		
		43						切替 (*9)		...		
		44						*2	*2	...		
		45						*2		...		
		46						*2		...	*3,741	
調 査 調査期間：	(スリランカ、タイ、パキスタン、イラン、アフガニスタン) 世界一般を参照のこと	39			(1)	(127)					(127)	

技術協力センター事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)																				
				人数		経費																							
				継続	新規	千円	千円																						
スラタニ道路建設技術 訓練センター 署名年月日：46.5.19 協力期間：46.5～ 51.5 (延長) 51.5～ 52.5 事前調査：45.5.25～ 45.6.25 実施調査：45～ 巡回指導： 巡回指導： 機材修理：48.10.8～ 48.10.19 巡回指導：50.5.11～ 50.5.24 (マレーシア船舶機関 士養成計画、タイ・ス ラタニ道路建設センタ ーの2センターの巡回 指導、経費折半、アジ ア一般参照) 機材修理：51.8.10～ 51.8.24 エバリュエーション調査： 52.2.1～52.2.15	本センターは南部タイ開発計画の一環として、スラ	45	事前調査		*6	...																							
	タニ市からマレー半島東海岸をナコンシタマラート市	45	実施調査		10	1,313																							
	に至る路線に沿ってスラタニ～シジョン間約70kmの	46	巡回指導		2	660	10	28,906	351,513																				
	道路を建設することによって、経済交流を活性化する	47	巡回指導		2	794	10	31,070	139,667																				
	とともに、この道路建設を通じて道路設計、施工維持	48	機材修理		2	907	10	47,969	99,812																				
	並びに建設機械の運転、修理および整備に関するタイ	49					10	49,520	1,070																				
	側技術者の訓練、養成を行うことを目的とする。	50	巡回指導		(2)	(687)	11	57,168	106,174																				
	本センター設立に関する協定は昭和46年5月19	51	(同上51年 度支出分)			64																							
	日に締結され、協力期間は5年間であったが、昭和50	51	機材修理		2	1,615	12	59,247	22,217																				
	年1月にシジョン～タサラ間40kmが追加され、協定	51	エバリュエ ーション調査		3	1,709																							
	期間も1年延長され、昭和52年5月までの6年間と	52				69	10	10,601	10,941																				
	なった。 〔カウンターパート受入〕																												
	<table border="1"> <tr> <td>年 度</td> <td>43</td> <td>45</td> <td>46</td> <td>47</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> </table>	年 度	43	45	46	47	48	49	50	51	52	人 数	1人	1人	2人	4人	4人	3人	4人	6人	5人								
年 度	43	45	46	47	48	49	50	51	52																				
人 数	1人	1人	2人	4人	4人	3人	4人	6人	5人																				

技術協力センター事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)								
				人数		経費	人数		経費										
				継続	新規	千円	継続	新規	千円										
東北タイ職業訓練センター 協定等の職類：R/D 署名年月日：52.12.12 協力期間：52.12～56.12 事前調査：51.10.5～51.10.24 実施協議：52.11.28～52.12.14	タイ政府は1976年10月から始まった第4次経済社会開発5カ年計画の目標として、雇用機会の増大所得格差の是正、地域開発等を掲げ、その具体的施策の一つとして職業訓練施設の拡充を計画しているが、本計画の一環である東北タイ職業訓練センター設置に係る技術協力をわが国に要請してきた。 これに応えわが国は昭和51年10月事前調査団を派遣して設置計画の内容、規模等につきタイ国の事情を調査し、本センター設置のための技術協力に着手することは妥当であるとの結論を得た。昭和52年11月実施協議調査団を派遣し、討議議事録に署名した。本センターは、東北タイ地域における工業・農業の発展に寄与する技能者の養成、関連企業の生産性向上のために必要な技能者等の技術水準の向上に必要な実技及び理論の訓練を行なうことを目的とする。訓練分野は自動車・板金溶接・機械・電気電子・建築建設の6分野19職種にわたる。なお、本センターの建設及び機械は無償協力により実施された。昭和52年1月及び7月には本センター建設計画基本設計のため、実施設計調査団が派遣された。(開発調査事業参照)	51	事前調査		4	3,259					3,259								
		52	実施協議		5	3,807						3,807							
		53				946		9	27,536	59,507		87,989							
<p>[カウンターパート受入]</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>4人</td> </tr> </table>												年度	51	52	53	人数	1人	2人	4人
年度	51	52	53																
人数	1人	2人	4人																

技術協力センター事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
家具産業開発センター 協定等の種類：R/D 署名年月日：51.11.25 協力期間：51.11～ 54.11 事前調査：51.11.8～ 51.11.28	タイ国において、家具産業は伝統的デザインを継承する古い産業の一つであるが、産業の近代化のためには解決すべき基礎的問題点を数多くかかえている。このため、タイ工業省は工業振興局傘下のISI (Industrial Service Institute) を中心に家具産業の振興に必要な技術者訓練、試験研究、デザインの改良等を行うことによって、家具産業の育成強化を目指し、わが国に技術協力を要請してきた。 これに対してわが国は、昭和51年11月実施調査団を派遣し、本センター設置についてタイ側の実情を調査するとともに、協力のすすめ方について協議を実施し、その結果、同年11月25日R/Dに署名した。〔カウンターパート受入〕	51	事前調査		4	3,745					3,745
		52						5	25,237	109,905	135,142
		53				110	4	7	38,615	8,670	47,395

年 度	51	52	53
人 数	2人	2人	7人

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
薬品研究所 協定等の種類：R/D 署名年月日：43.6.28 協力期間：42～43.8 フォローアップ：48.4～ 50.3 視察団：44.3.8～ 44.3.14 年次協議：46.9.1～ 46.9.15 年次協議：47.12.5～ 47.12.19 国内協力機関： 国立衛生試験所 中央胸部病院	タイ国では現在でも一般民衆の相当部分が伝統的な	41					1	...				
	薬草による治療を行う「草医」に頼っているが、他方	42					1	1	...	8,483	研究機材	
	これらの400～800種の薬物に関する科学的研究体制	43	視 察		(4)	...		1	...	10,263	アミノ酸分析器	
	は整備しておらず、公衆衛生行政の基礎を固めるうえ	44					1	1	...	6,324	ポリグラフ	
	からも改善が必要とされている。こうした背景のもと	45					1	2	...	5,020	電磁血流計	
	で、昭和39年、タイ国公衆衛生省の要請にもとづい	46	年次協議		(2)	...		1	1	...	1,194	万能現象オシロスコープ
	て医療協力が開始され、昭和40年度には、2名の研	47	年次協議		(3)	...		3	3,348	㊦ 824 3,397	ポリグラフ	
	修員を受け、昭和41年度より専門家を派遣し、ま	48							435			
	た、昭和42年度より機材供与事業が実施され、これ	49						2	1,492	㊦ 920		
までアミノ酸分析器、ポリグラフ、万能現象オシロス												
コープ等の医療器材が供与された。												
本プロジェクトはR/Dによる協力を昭和47年度												
にて終了し、以後2年間はフォローアップ協力を実施												
した。												
中央胸部病院 協定等の種類： 署名年月日： 協力期間：37～45.3 視察団：44.3.8～ 44.3.14 国内協力機関： 結核予防会	本件は、中央胸部病院の結核分野に対して協力を実	41					1	...				
	施するもので、昭和41年度麻酔学専門家1名、昭和	42					1	2	...	1,418	結核研究用機材	
	42年度結核研究専門家およびダニ学専門家各1名、	43	視 察	(4)			1	1	...	3,260	臨床検査用機材	
	昭和43年度および昭和44年度結核研究専門家を各	44						1	...			
1名派遣するとともに臨床検査用機材を供与した。												

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
ウイルスセンター 協定等の種類：協定 (日・タイ技術協力協 定) 署名年月日：36.11.25 協力期間：36~48.3 フォローアップ：48.4~ 51.3 視察団：44.3.8~ 44.3.14 年次協議：46.9.1~ 46.9.15 年次協議：47.12.5 47.12.19 国内協力機関： 大阪大学微生物病研究 所	同センターは昭和36年11月、日本・タイ両国で	41					2	2	...	19,646	電子顕微鏡
	調印された協定にもとづき、昭和37年度海外技術訓	42					4	8	...	4,691	冷凍遠心器
	練センターとして開設され、その後、昭和42年2月	43	視 察	4	...		4	5	...	4,827	アルボウイルス 研究用機材
	開所した。	44					3	5	...	6,663	
	昭和41年以來、多数の専門家を派遣するとともに	45									
	アルボウイルス研究用機材、免疫化学等のガラス、試	46	年次協議		2	786	2	3	...	9,385	乾燥滅菌器
	薬等の医療器材を供与し、同国におけるポリオ、狂犬	47	年次協議		3	...	2	2	7,499	658 4,525	電子リコピー
	病、インフルエンザ、出血熱等のウイルス性疾患の解	48							5,801	64 1,597	ランドクルーザー
明、その対策の確立に寄与した。また、本件プロジェ											
クトは、地方2カ所にサービスステーションを設置し											
て顕著な成果をあげ、高く評価された。											
昭 和 4 7 年 1 2 月 の 年 次 協 議 に お い て 、 当 初 の 目 的											
は一応達成されたと認め、昭和48年度末で終了し、											
以後2年間はフォローアップ協力を実施した。											
(技術協力センター事業を参照)											
国立病院(診察団)	昭和41年8月、タイ国の各地域の中心となる病院	41	実施調査		4	...		14	...	22,588	X線車、X線 装置、心電計
協定等の種類：R/D	を基地に、長期的な巡回診療を行うべく予定されてい	42						11	14	...	医薬品
署名年月日：41.8.22	る診療団2チームの派遣に関する実施調査団を派遣し、	43	視 察		(4)	...		10	9	...	
協力期間：41~44.7	この結果、6名からなる診療団2チームをスリサケッ	44						5	...		
.....	ト地区およびプリムラ地区に派遣する旨のR/Dを取										
実施調査：41.8.8	り決めた。										
41.8.24	昭 和 4 1 年 度 は 、 昭 和 4 1 年 1 2 月 か ら 昭 和 4 2 年										
視察団	1月にかけて、スリサケット地区およびプリムラ地区										

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
国内協力機関： 日本赤十字社 順天堂大学他	に各1チームの診療団を派遣し、X線車、X線装置、心電計等の機材を供与した。 また、昭和42年度14名、昭和43年度9名の診療団を派遣し、あわせて必要な機材および医薬品等を供与した。 本協力は、昭和44年7月、5名からなるスリサケット診療団の帰国によって終了した。										
マヒドール医科大学熱帯医学部 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間：40～47.3	昭和43年度にタイ国政府より熱帯病を媒介する蚊およびダニの撲滅のための強力要請があり、これを受けてわが国は東京大学等の協力の下に専門家を派遣する一方、分離用遠心機、顕微鏡等の機材供与を実施した。	41				1	2	...			
		42				2	3	...	3,335	分離用遠心器	
		43				2	3	...	10,484	顕微鏡	
		44				2	1	...			
		45				2	1	...			
		46				1		...	2,103	顕微鏡	
国内協力機関： 東京大学医科学研究所 新潟大学医学部											
ポリオ対策 協定等の種類：R/D 署名年月日：42.5.30 協力期間：43.4～45.3	タイ国からの経口ポリオワクチン50万人分供与の要請に応え、わが国は昭和43年9月実施調査団を派遣し、本計画の実施方法等について打合せを行い、R/Dを取り決めた。協力内容は、原則として単年度の協力とし、経口生ポリオワクチン50万人分の供与、投与関係機材の供与および専門家の派遣プロジェクト協力によることである。	42	予備調査		3	...					
		43	実施調査		4	...		3	...	23,333	生ポリオワクチン (25万人分)
		43	視 察		(4)	...					
		44					2	...			
予備調査：42.5.15～ 42.6.4 実施調査：43.9.21～ 43.10.5	その結果、昭和43年度、生ポリオワクチン25万人分(50万ドーズ)を供与し、派遣専門家の指導に										

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
視察団：44.3.8～ 44.3.14 国内協力機関：厚生省 国立予防衛生研究所	より、バンコク地区に対し投与を行った。										
精神病院 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間：	本件は、専門家派遣事業のみを実施する単発医療協 力事業で、昭和42年度、神経外科および脳波の専門 家各1名を継続派遣するとともに、電子医学専門家1 名を新規に派遣した。 また、ポリグラフ等診断用機材を供与した。	42 43				2 1	…	4,551 4,030	ポリグラフ等 診断用機材		
国立がんセンター 協定等の種類：R/D 署名年月日：42.7.19 協力期間：42.7～52.3 フォローアップ協力期間 52.4～54.3 実施調査：42.7.5～ 42.7.19 視察団：44.3.8～ 44.3.14 年次協議：46.6.7～ 46.6.19 年次協議：49.1.19～ 49.2.28 エパリュエーション調査： 52.2.15～52.2.24	本件プロジェクトは昭和41年度より協力が開始さ れ、当初は早期がん発見クリニック創立のため、昭和 42年より5カ年計画で専門家派遣、機材供与、研修 員受入れの三本柱の協力を実施し、昭和43年12月 に同センターは開所した。 昭和45年5月、東京で行われた年次協議において、 第2段階の協力として、付属病院の建設にともなう外 科、放射線、臨床検査、内視鏡、肝臓がん部門の創設 または強化のための医療協力の要請に対し、日本側は 協力することに決め、建物竣工は昭和46年2月を目 標とすることで合意をみた。しかし、タイ側による病 院建設は予定より大幅におくれた。昭和46年6月の 年次協議の結果、3カ年の協力延長要請、また昭和49 年2月の年次協議の際にはさらに2カ年の協力期間の 延長要請があり、日本側もこれに合意した。 遅延していた病院建設も昭和50年12月に完成し、	42 45 44 45 46 47 48 49 50	実施調査 視 察	3 (4)	… … …	7 19 5 1 4 18 2 4 21 6 4 1 13 1 9 6 12	… … … … … 6,470 … … 12,673 10,134 15,793	35,776 66,989 58,577 27,751 92,005 37 34,112 559 29,871 577 39,663 3,578 59,073	X線装置、検 査用機材 X線装置 放射線治療機 手術用照明灯 リニアック装置 外科用X線 TV装置 分光光度計 回転横断撮影 装置 X線がん深部 治療機		

保健医療協力事業

プロジェクト名	概要	年 度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	主要機材	
				人数		経費	人数		経費			
				継続	新規	千円	継続	新規	千円			
国内協力機関： 国立がんセンター	昭和51年1月から入院患者収容も開始され、必要に応じ手術も行われている。ここにいたり、タイ国立がんセンターは、早期発見、診断および治療の機能を有するがんの総合病院としての活動を開始した。	51	エバリュエーション調査		4	1,985	4	10	11,860	36,191	X線がん深部治療機	
		52				330		4	2,320	59,987	自動血数計算機	
		53						4	3	2,925	12,122	ガストロファイバースコープ薬品
ラマチボディ医科大学 ①眼科部門 協定等の種類：R/D 署名年月日：43.5.30 協力期間：43～50.3 国内協力機関： 順天堂大学 ②実験病理部門 協定等の種類：R/D 署名年月日：44.2.10 協力期間：44～48.3 国内協力機関： 和歌山県立医科大学 大阪大学医学部	昭和43年度にラマチボディ医科大学に病理および眼科両部門が開設されたことにより、タイ国政府はわが国に対し、ラマチボディ医科大学学生に対する病理および眼科両部門の研究および教育面に関する協力を要請してきた。これに対してわが国は調査団を派遣して、タイ国政府と実施方法等について打合せを行い、協力を約束した。両部門に対する協力のうち、実験病理部門は和歌山県立医大、大阪大学医学部、同微研および奈良県立医大、眼科部門は順天堂大学の協力のもとにそれぞれプロジェクト協力を実施し、これまでに顕微鏡、多様途監視記録装置等の機材を供与し、また専門家派遣および研修員受入を行った。 なお、昭和51年度は、前年度供与した電子顕微鏡据付のため、単発専門家により専門家1名を派遣した。	43	実施調査		2	...		2	...	9,362		
		43	視察		(4)	...						
		44						1	4	...	7,525	
		45	実施調査		3	...		4	3	...	23,024	眼科用器材 電子顕微鏡
		46						4	4	...	16,735	多様途監視記録装置
		47						2	4	10,361	③ 1,008	
		48									844	眼球運動誘発装置
		49							1	1,034	1,981	データレコーダー
50									25,661	透過型電子顕微鏡		
51							1	779				

保健医療協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
実施調査：43. 5.25～ 43. 5.30 視察団：44. 3. 8～ 44. 3.14 実施調査：46. 2. 3～ 46. 2.13											
栄養研究所 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間： フォローアップ：	本件は専門家派遣事業のみを実施する単発医療協力事業で、昭和44年度、国立栄養研究所の協力により、アミノ酸分析専門家2名およびアミノ酸分析機据付専門家1名の合計3名を派遣した。	44					3	...			
国内協力機関： 国立栄養研究所											
食品分析 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間：	本件は専門家派遣事業のみを実施する単発医療協力事業で昭和47年度、国立衛生試験所の協力により、食品添加物、残留農薬の規制指導のため専門家1名を派遣した。	47					1	408			
国内協力機関 厚生省 国立衛生試験所											

保健医療協力事業

タ
イ

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
医療機材管理技術巡回 指導班 調査期間：48. 1. 5～ 48. 4. 6 (25)	(ビルマ、タイ) アジア一般を参照のこと。	47	巡回指導		(4)	(2,343)					
家族計画 協定等の種類：R/D 署名年月日：49. 7. 25 協力期間：49.10～ 54. 3 基礎調査：49. 3. 20～ 49. 3. 31 実施調査：49. 7. 8～ 49. 7. 26 エバリュエーション： 52.8.31～53.12.17 (フィリピン家族計画 調査団と同一) アジア一般を参照のこ と 国内協力機関： (財)家族計画国際協力財 団	昭和49年3月に派遣した医療協力基礎調査団の結果にもとづき、同年7月に医療協力実施調査団を派遣し、協力分野、協力内容、協力期間等具体的にR/Dにて取り決める。 協力内容は、人口抑制政策の面より器具等を供与して使用普及を図るとともに、広報車等を利用して家族計画に関する普及宣伝ならびに教育、講演等を実施する。	48	基礎調査		5	2,324					
		49	実施調査		(4)	340 (1,904)					
		50								66,558	視聴覚教材、 避妊具
		51								78,312	小型トラック
		52	エバリュエーション調査		(3)	(1,132)				99,314	広報教育活動車
		53	巡回指導		(3)	(1,246)				74,832	オートバイ、広報 教育用活動車

保健医療協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	主要機材			
				人数		経費						
				継続	新規	千円	千円			継続	新規	千円
医療機材修理班 調査期間：48.11.24～ 48.12.13	(ビルマ、タイ) アジア一般を参照のこと。	48	機材修理		(7)	(3,726)						
巡回指導 調査期間：49.1.17～ 49.2.5	(インド、スリ・ランカ、タイ) アジア一般を参照のこと。	48	巡回指導		(4)	(954)						
(大学教授)	(ラオス、タイ) アジア一般を参照のこと。	48					(1)	(313)				
地域保健活動向上計画 協定等の種類：R/D 署名年月日：51.2.2 協力期間：51.4～ 56.3 基礎調査：49.11.25～ 49.12.18 実施調査：51.1.20～ 51.2.3 巡回指導：52.11.29～ 52.12.10 計画打合せ：54.3.11～ 54.3.24 国内協力機関： 大阪大学微生物学研究所	昭和49年11月、医療協力基礎調査団を派遣し、タイ国政府の強力要請を基礎的に調査、打合せを実施した。 昭和51年1月には、医療協力実施調査団を派遣し、タイ国政府とR/Dを取決め、農村地域における公衆衛生対策に関してプロジェクト方式により協力することになった。 昭和50年度からは専門家派遣を開始し、また、昭和51年度からは機材供与も開始した。 昭和53年度にはチャントブリのモデル地区の現状視察及び調査を行なうとともに、今後2年間の協力計画についてタイ側と打合せた。	49	基礎調査		5	3,921						
		50	実施調査		5	3,195		2	1,124			
		51							7	8,558	2,754	マイクロタイターセット
		52	巡回指導		4	2,824	2	9	27,915	121,851	顕微鏡 遠心分離器	
		53	計画打合せ		3	1,523	6	5	56,495	140,902	遠心機 分光光度計	

保健医療協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
家族計画実施調査 調査期間：49.7.8～ 49.7.26	(フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。	49	実施調査		(4)	(1,122) (1,132)					
(大学教授)	(フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。	49					⊙1	⊙(262)			
医療機材修理班 調査期間：49.10.8～ 49.11.10	(ビルマ、スリ・ランカ、タイ) アジア一般を参照のこと。	49	機材修理		(7)	(3,576)					
医療機材修理班 調査期間：51.3.31～ 51.4.21	(ビルマ、タイ) アジア一般を参照のこと。	50	機材修理		(6)	(5,602)					
医療機材修理班 調査期間：52.3.25～ 52.4.8	(スリ・ランカ、タイ) アジア一般を参照のこと。	51 52	機材修理		7+(1) (5)	(5,575) (319)					
医療機械管理指導班 調査期間：52.8.18～ 52.9.1	協力実施中のプロジェクトを対象として、供与した各種医療機械の保守、管理の技術指導及び修理を実施した。	52	機械修理		7	7,693					

保健医療協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家		機材供与経費 (千円)	主要機材
				人数		経費			
				継続	新規	千円	千円		
王母殿下医療奉仕財団 (特別機材) 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間： 国内協力機関	単独医療機材供与	51						5,851	患者移送車
医療機材管理指導 53.7.25～53.8.8	国立がんセンター、地域保健活動向上計画プロジェクト に対して供与した医療機材の維持管理及び操作について 指導、助言を行い、合せて修理を行う。	53		6	4,563				
看護教育関係	(タイ、インドネシア) アジア一般を参照のこと。	52	事前調査	(5)	(1,817)				
保健医療協力	(インドネシア、マレーシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	52	事前調査			(6)	(1,842)	(5)	
医療機材	(タイ、インド) アジア一般を参照のこと。	52	管理指導	(6)	(4,250)				
皇太子殿下御成婚記念 病院(特別機材供与)	単独医療機材供与	52						10,414	患者移送用車 輦
看護教育	看護教育関係専門家4名を派遣。 派遣期間：53.7.27～53.8.18	53			4	4	2,713		

農林業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
養蚕開発 協定等の種類：R/D (タイ国における養蚕 開発への技術協力に関 する討議議事録) 署名年月日：44. 3. 7 協力期間：44.3~47.3 協定等の種類：R/D (同上(第二次)) 署名年月日：47. 3. 8 協力期間：47.3~50.3 協定等の種類：R/D (同上(第三次)) 署名年月日：50. 3. 5 協力期間：50.3~53.3 基礎(事前)調査： 43. 7. 3~43. 7.23 実施調査：44. 2.18~ 44. 3.10 巡回指導：45. 2.26~ 45. 3.18 巡回指導： 45. 7.27~45. 8.10	タイ国は、年々増大するタイシルクの需要、輸出増	43	事前調査		5	3,134				} 5,482		
	加傾向に対応するため、輸入に依存していたたて糸用	43	実施調査		5	2,348						
	の生糸の自国内供給をはかるため、また、東北部農家	44	巡回指導		4	㊦ 270 1,704		4	13,067	68,128	83,169	
	所得の増大を目指してわが国に養蚕協力の要請をして	45	巡回指導		3	㊦ 312 1,881		4	2	21,578	55,677	79,448
	きた。この要請を受けて、わが国は、コラート養蚕研	46	巡回指導		6	㊦ 1,018 2,120		6	3	31,611	52,713	87,462
	究訓練センターにて技術改良、訓練の開始を実施した。	47	巡回指導		5	㊦ 1,047 2,126		6	8	45,314	49,377	97,864
	さらに昭和47年3月7日、コラート養蚕研究訓練セ	48	(同上報告書)			㊦ 311					} 100,328	
	ンターで確立された技術を移行普及する目的で設置さ	48	巡回指導		5	㊦ 616 2,690		10	5	49,811		46,900
	れていた4サブセンターを中心に3カ年間の延長を行	49	エバリュエー ション調査		4	㊦ 467 2,117		7	9	57,116	㊦ 593 57,409	117,702
	った。昭和49年11月、本協力に対するエバリュエー	50	計画打合せ		4	㊦ 506 2,133		7	3	59,825	㊦ 276	62,740
ション調査団を派遣し、プロジェクトの評価、今後	51	巡回指導		4	㊦ 254 2,577		7	4	58,278	㊦ 709 87,584	149,402	
の方針を策定したところ、タイ国は、6カ年間の我が	52	エバリュエー ション調査		5	6,415		7	4	63,582	122,466	192,463	
国の技術協力の成果を高く評価し、4サブセンターを	52	巡回指導		(4)								
中心に10~12カ所の養蚕パイロット村を設置する	53	巡回指導		(3)	(1,350) 61		6		34,453	15,888	(1,350) 50,402	
計画をたて、このパイロット村に対する協力を強く要												
請した。また、同調査団もこの観点から再延長の必要												
性を結論づけたため、昭和50年3月7日第3次R/D												
をとりまとめ養蚕パイロット村を中心に協力を実施												
している。												

農林業協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
46.11.9～46.11.28 巡回指導： 46.12.11～46.12.25 47.2.27～47.3.9 巡回指導： 48.3.22～48.4.11 巡回指導： 49.2.25～49.3.15 エバリュエーション調査 49.11.1～49.11.15 計画打合せ： 50.8.25～50.9.8 巡回指導： 51.11.30～51.12.16 巡回指導： 53.3.7～53.3.22 エバリュエーション調査 52.9.12～52.10.4 巡回指導： 53.11.14～53.11.26											
東南アジアかんがい計画基準作成調査 調査期間：48.10.29～ 48.11.24	(インドネシア、ラオス、フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。	48	基礎調査		(8)	(2,040)				(2,040)	

農林業協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団		専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人数		経費					
				継続	新規	千円	継続	新規			千円
家畜衛生協力 協定等の種類：R/D 署名年月日：52.3 協力期間：52.3～55.3 実施調査（一次）： 51. 9.11～51.10.16 実施調査（二次）： 52. 2.17～52. 3. 3 計画打合せ： 52. 8. 2～52. 8.14 巡回指導： 53.11.23～53.12.12 アジア一般を参照のこと。	家畜衛生事情の改善を図ることを目的として次の事業を行う。 1. 中央政府に対する家畜衛生企画協力。 2. 家畜衛生センターを中心とする家畜疫病の診断および調査防疫。 3. 口蹄疫センターを中心とする口蹄疫ワクチン大量製造培養技術の確立と口蹄疫の診断。 なお、口蹄疫センターは無償援助による建設が予定されている。	51	実施調査（一次）		5	37,619				6,235	
		51	実施調査（二次）		3						
		52	計画打合せ		3	2,064		9	17,071	111,950	131,085
		53	巡回指導		(4)	(1,653)521	9	5	72,725	65,923	(1,653)139,169
かんがい農業開発 協定等の種類：R/D 署名年月日：52.4 協力期間：52.4～57.4 事前調査： 51. 5.10～51. 6. 3 実施設計調査（事前打合せ）： 51.11.30～51.12.14 実施設計調査： 52. 2.13～52. 4.13	タイ国の水稲単位面積の収量の増大および水稲二期作面積の拡大により米作増産を図るため圃場整備の推進および営業技術ならびに営農組織等の改善普及を主たる事業とする次の協力を行う。 1. プロジェクトセンター：周辺地域の開発計画に対する助言および総括的業務。 2. チカオピアパイロットプロジェクトおよびメクロンパイロットプロジェクトにて次の活動を行う。 イ. 輸中堤、圃場整備の計画および建設。 ロ. 試験圃場での実用試験および訓練。 ハ. 農民組織の育成強化。 3. 試験および訓練プロジェクト：改良農業技術の訓練。	51	事前調査		5	5,041		3	6,453	3,880	35,322
		51	実施設計調査（事前打合せ）		3	19,948					
		51	実施設計調査		15						
		52	〃		9						
		52	〃		6						
		52	巡回指導		(1)	34,269		6	31,256	144,236	209,761
		52	計画打合せ		4						
		53	巡回指導		(1)	(1,670)143	6	7	106,095	168,959	275,197

農林業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費	人 数				経 費
				継続	新規	千 円	継続	新規			千 円
実施設計： 52. 9.20～52.10.14 巡回指導： 52.12. 6～52.12.14 計画打合せ： 53. 3.13～53. 3.15 巡回指導： 53.10.24～53.11. 7											
技術協力調査	(タイ、マレーシア) アジア一般を参照のこと。	52	事 前		(3)	(759)				(759)	
農業及び協力計画基準 作成調査	(フィリピン、インドネシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	52	計 画 基 準 作 成 調 査		(8)	(5,637)				(5,637)	
カセサート大学技術協 力 協定の種類： 署名年月日： 協力期間： 基本設計： 53. 7. 5～53. 7.22	「タ」政府は、当該大学カンパンセンキャンパスの 総合研究センター、農業機械センター及び普及訓練セ ンターに対する無償援助及び技術協力を要請してきた。 これを受けて要請内容確認等、基本設計のための構想 を策定した。なお、52年7月事前調査、同10月総 合センター基本設計調査を開発調査にて実施した。	53	基 本 設 計		7	4,737				4,737	
国立雑草科学研究所 技術協力計画調査 事前調査： 54. 2.26～54. 3.10	タイ国政府の要請にもとづき、要請内容の確認、技 術協力の可能性の検討、協力方向の策定及び現地踏査 を行った。	53	事 前		5	2,745				2,745	

農林業協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費				
				継続	新規	千 円	千 円			継続
モデルインフラ整備事業 53. 4.25 ~ 53. 5.24	(バングラデッシュ、インドネシア、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	53	巡回指導		(3)	(884)				(884)
造林計画基準作成調査 53.11.29 ~ 53.12. 3	(シンガポール、フィリピン、パプア・ニューギニア) 世界一般を参照のこと。	53	基礎調査		(6)	(3,593)				(3,593)

産業開発協力事業

一次産品開発協力 協定等の種類： 署名年月日： 協力期間： ----- 実施調査（一次）： 43. 2.19 ~ 43. 3.31 実施調査（二次） 43. 3.25 ~ 43. 4.26	昭和42年度および昭和43年度の二次にわたり調査団を派遣し、本協力の対象品目をケナフ、油糧種子、カッサバ、とうもろこし、マイロ、タバコの6品目とすることに決定するとともに、各品目ごとの問題点と技術協力の実施構造をまとめてタイ側に提示、その同意を得た。すなわち、本協力は、油糧種子（大豆、ひまし、ごま、落花生等）、飼料作物（とうもろこし、マイロ、カッサバ）およびケナフの生産性の増大、生産コスト低減、品質の向上を図ることを目的としている。このうち、ケナフについては、昭和43年度において、規格検査については昭和44年度において、それぞれ実施済みである。また、大豆開発については、昭和45年4月から5月にかけて4名の専門家を派遣するとともに、必要資機材の供与を行い（タイ・大豆開発協力を参照）、同年オイルシードラボラトリーおよび、とうもろこし開発協力にかかる調査を実施した。 (注) 一次産品開発協力プロジェクトは、当初、協力の対象品目をケナフ、油糧種子、カッサバ等6品目とし、単一プロジェクトとして、協力を開始したが、その後大豆、オイルシードラボラトリー、とうもろこし	42	実施調査 (一次)		4	4,433					4,433
		42	実施調査 (二次)		7						
		43	実施調査 (二次後)		4	3,383	7	4,074	41,745	49,202	
		44				285			4,955	5,240	

産業開発協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費				
				継続	新規	千 円	千 円			
	等、協力対象をしぼって協力を実施すべく分化していった。分化後のプロジェクト協力について以下のとおりである。									
大豆開発協力 協定等の種類：覚書 署名年月日：43. 4. 23 協力期間：43.4～51.4 巡回指導： 46. 8. 15～46. 9. 4 巡回指導：48. 3～ 巡回指導： 50. 3. 19～50. 4. 4 巡回指導： 51. 2. 19～51. 3. 4	タイ国はとうもろこしと米を除く同国の有望な農産物の一つである油糧種子とりわけ大豆を国内油脂工業の原料、国内蛋白質源あるいは輸出農産物として、その生産振興に努力してきた。協力事業開始後、生産高もあがり、輸出品としても次第にその地位を高めつつあるが、依然として生産性および品質の点で米国や中国産のものに劣り改善の余地がある。 わが国は大豆の増産、品質改善および流通コスト低下の分野にわたる研究活動をチェンマイ近郊メジョ農業試験場を中心に行ってきた。 昭和45年以来、本プロジェクトは同国の大豆生産とその研究水準の向上に寄与してきたが、その成果として雨期作向け、サビ病抵抗性・多収・耐倒伏性の1系統および乾期作向け高油分・多収・耐烈炎性の1系統を固定し、新品種にできる見通しを得、またカウンターパートを中心とするタイ側研究者の研究および技術の水準が向上したことにより、タイ側の自立化についてもその展望を開いた。 昭和51年2月、巡回指導調査団を派遣し、新品種育成の最終段階における技術指導を行うとともに、本協力の終結に関してタイ国関係者と協議し、前述の協力の成果をふまえ、次のとおり合意した。協力は昭和51年度4月に終結し、今後の方針として日本側は育	44					38	29,267	29,305	
		45					4	11,620	44,742	56,362
		46	巡回指導	4	2,194	3		11,357	5,570	19,101
		47	巡回指導	4	2,205	3	2	14,132		16,337
		48		1	623	3	2	11,991	7,153	19,767
		49	巡回指導	4	Ⓢ220 2,311	2	1	9,935	Ⓢ22 13,661	26,149
		50	(同上報告書)		Ⓢ84					} 23,768
		50	巡回指導	4	Ⓢ455 2,178	2	2	13,455	Ⓢ17 7,579	
		51	(同上報告書)		Ⓢ73					} 3,293
		51			Ⓢ87	1		60	3,073	

産業開発協力事業

タ
イ

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)		
				人 数		経 費					
				継続	新規	千 円	千 円				
	種のマニュアルを作成し提出する。さらに大豆開発事業に関し協力を必要とする場合は、新たな案件として取り扱う。										
オイルシード・ラボラトリー 協定等の種類：覚書 署名年月日：45.11～50.11 巡回指導： 49.3.20～49.3.31	昭和43年、タイ国の要請にもとづき、技術協力実施調査団が派遣され、油糧種子、ゲナフ、タバコ、カッサバ、とうもろこしおよびタピオカの6品目に関する技術協力の問題点及び必要性について調査した。このうち油糧種子は輸出競争力を備え高品質種子の開発が可能であり、かつ、タイ国油糧種子産業の振興を図る目的から技術協力を実施することとし、覚書を交換した。 技術協力に関するこの覚書にもとづき、タイ国政府から要請があり、協力が開始された。この要請の中で次の3項目の協力が要望された。 a. 油糧種子の品質管理及び改良品種の成分分析等のための研究室の整備 b. 製油及び油脂精製用ミニプラントの設置による適品種の選定と製油技術の向上 c. 日本における技術研修 昭和44年9月には、タイ技術者の研修が日本で開始され、翌年3月には、分析用器具、装置及び試薬類が供与された。 しかし、研究所の建物完成に時間がかかり、ミニプラントが同研究所内に設置されたのは昭和47年9月であった。さらに研究室の開設指導を加藤専門家が昭和48年3月までの6カ月間行った。また、昭和48	44						18,824	18,824		
		45						49,102	49,102		
		46									
		47					1	2,139	142	2,281	
		48	巡回指導		2	745	1	1	2,860		3,605
		49					1	5	9,623	2,026 18,809	30,458

産業開発協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人 教		経 費	人 教		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
	<p>年11月から1年間、中里専門家がタイ指導者に対して、油脂化学、油脂分析技術の指導ならびに研究の指導を行った。昭和49年3月、巡回指導班の派遣によりミニプラントの補修等について調査した。</p> <p>一方、同研究所で使用する水の軟水化装置を完成し、昭和49年10月から3カ月間、2名の搾油技術専門家を派遣し、大豆の抽出、精製の技術指導を行った。</p> <p>以上の結果、油脂分析、ミニプラントの運転操作等この協力事業の当初目的を果たし、一応の段階を終了したものと判断され、この協力事業は終了することとなった。</p>										
<p>とうもろこし開発協力 協定等の種類：R/D (とうもろこし開発の 技術協力に係る討議議 事録) 署名年月日：51.9.17 協力期間：51.9～54.9 事前調査： 50.3.3～50.3.23 実施計画調査： 50.12.1～50.12.19 実施計画調査： 51.8.30～51.9.19 実施設計：</p>	タイ国国家開発省作用販売局は、農業共同組合の事業として、とうもろこしの増産および協同組合を通じての販売により、とうもろこし地帯における協同組合の育成を図ることを計画し、わが国の協力を要請してきたので、タイ側の計画が実施可能か否か、また、実施する場合の方法、問題点について現地調査ならびにタイ側関係者と折衝し、また、信用販売局と農業省農務局間の協力について協議することを目的に調査団を	45	基礎調査		5	3,130					3,130
	46										
	47										
	48										
	49	事前調査		2	1,120						1,120
	50	実施計画調査		6	㊦ 319 2,861						3,180
	51	(同上報告書)			㊦ 796						} 8,800
	51	実施設計調査		5	㊦ 143 2,975		2	4,820	㊦ 66		
52	種子調整施設設置設計調査		3	6,398	2	2	15,606	86,679		108,683	
53	巡回指導		4	(2,743)	2	6	(2,596) 43,451	(3,053) 90,351		142,194	

産業開発協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
53. 1.24 ~ 53. 2.16 巡回指導	<p>まり、さらにその安定を待つことになった。昭和50年3月、2名からなる事前調査団が派遣された。調査内容はタイ国政府の関係者との会談のほか、メイズの生産地たる中央平原のプラバドバド、チャイバダン、タクフエ等を訪れ、地方の試験場における試験研究の実態、試験場の諸設備、Locust 防除の概要、センター予定地等を調査した。また昭和50年12月には実施計画調査団が派遣され、チャイバダン郡のセンターを中心に関連展示館場での協力が必要であるとの確認がなされ、さらに昭和51年8月に実施設計調査団を派遣して、関係農場等の設計を行うとともに協力のための討議事録に署名し、チャイバダン機械化センターを総合センターとし、ここを根拠に農協という新技術受容の基盤強化を図りつつ、組合員に対する技術訓練のほか、種子殖事業、適応試験も併せ行い、総合的な効果あるプロジェクトとして実施すべく本格的に協力を開始することになった。</p> <p>「タ」国側のセンター建設の対応の遅れにより、当部計画を作成した時点より約2ヶ年経過しているので基本計画の練り直しが必要となり、巡回指導チームが新事業計画を作成した。</p>										
53. 7.27 ~ 53. 8.10											
えび養殖開発協力 協定等の種類：R/D (えび養殖にかかる技術協力に関する討議議事録)	タイ国政府は、第3次経済社会発展5カ年計画(1972年~1976年)において、えび養殖事業を産業的規模で開発し、えびの対外輸出を増大させることを重要施策の一つとし、えびの輸出向け農水産物増産計画の中で最優先することに決定し、まず、えび養殖の先進国と	46	基礎調査								
		47	実施調査	5		79 2,516				2,595	
		48	(同上報告書)			330	7	11,674	44,463	56,467	
		49	巡回指導	6		424 3,185	3	3	24,791	38,400	66,376

産業開発協力事業

プロジェクト名	概要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)	
				人 数		経 費	人 数		経 費			
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円			
天然ゴム開発技術協力 協定等の種類：R/D 署名年月日：52.4.1 協力期間：52.4～55.4 事前調査： 51. 1. 9～51. 2. 17 実施調査： 52. 3. 17～52. 4. 6 計画打合せ： 52. 8. 29～52. 9. 7	アセアン5カ国は、世界の天然ゴム生産の大部分を生産しており、それぞれ重要な輸出品となっているが、近年その製造方法も、スモークラバーからPSラバーに転換しつつあり、製品の品質の向上規格化が必要とされるに至り、わが国に対し、技術協力の要請がなされた。わが国は、昭和51年1月アセアン5カ国を対象に事前調査を実施し、当初予定していたインドネシアより、タイが協力の対象として適合していることが明らかになった。 昭和52年3月には、実施調査団が派遣され、アセアン5カ国天然ゴム開発技術協力の一環としてタイにおける協力の基礎となるべき事項につき、協力内容、実施方法をタイ側と協議し、合意議事録を作成した。協力内容等は以下のとおりである。 1. 協力内容：需要増大のネックとなっている品質のバラッキ改善、標準化のための技術の向上に対する研究、指導。 2. 協力方法：専門家派遣、研修員受入、機材供与。 3. 協力受入期間：南タイ、ハジャイにあるゴム研究所。	51	実施調査		5	3,228			417		3,645	
		52	〃		5							
		52	計画打合せ		2	1,510		5	6,195	54,246		61,951
		53				164		3	30,930	29,430		60,523

開発調査事業

順	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)	
1	東南アジア・デルタ調査	(ビルマ、インド、パキスタン、台湾、タイ)アジア一般を参照のこと。	37	投	37.10.20~38. 2. 9	(3)	(613)	
2	東南アジア域内電気通信網整備計画調査	(インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、タイ、台湾、ヴィエトナム)アジア一般を参照のこと。	42	〃	42.10. 7~42.11.11	(6)	(693)	
3	プロジェクト選定確認調査	① (マレーシア、フィリピン、タイ)アジア一般を参照のこと。	41	事 前	41. 7.19~41. 8.12	(3)	(972)	
		② (タイ)経費については、アジア一般を参照のこと。	51	〃	51. 7.26~51. 8. 4	3	(1,382)	
4	ラムナイ地区開発計画調査	同地区の現状調査ならびにわが国協力の在り方検討。	35		35.11. ~35.12.	5	2,925	
5	南部道路建設計画調査	アジア・ハイウェイの一区間である同国南部65kmを建設するための調査。	35		36. 2. ~36. 3.	5	2,586	
6	水産資源開発計画調査	タイのインド洋沿岸地域において真珠母貝資源の調査。	37	投	38. 2. 8~38. 3.31	7	3,327	
			38	〃	38. 4. 1~38. 4.14	(7)	599	
7	農業開発計画調査	タイ農業の現状および問題点を把握し、これにもとづき農業調査の実施計画ならびに将来の開発方針の検討。	37	〃	38. 2.28~38. 3.31	5	2,212	
			38	〃	38. 4. 1~38. 4. 7	(5)	406	
8	ソククラ港建設計画調査	同港の改良及び拡張計画立案のための基礎調査。 将来の発展等を考慮した段階的マスタープラン策定のためのフィジビリティ調査。	40	〃	40.11. 9~40.12.13	6	3,665	
			41	〃	42. 3.25~42. 7. 2	5	4,421	
			42	〃	42. 6.17~42. 7.16	6	14,736	
			45	実・設	45.11.17~45.11.28	4	1,803	
			46	投	46. 8.16~46.11.28	15	37,961	
9	東南アジア・ケーブル計画調査	台湾~フィリピン~タイ間ケーブル建設のためタイのケーブル陸場地点の選定等。	40	〃	41. 3.24~41. 3.31	5	1,779	
			41	〃	41. 4. 1~41. 4.22	(5)	2,113	
10	テレビジョン放送網建設計画調査	タイ政府は各地に送信所及びマイクロ波中継所を建設してテレビを全国中に中継することを決定、この計画設計建設のための調査。	41	〃	41. 5.23~41. 8.30	7	10,893	
11	バンコク~トンブリ間架橋計画調査	①第1橋建設計画 首都圏の中核をなすバンコク~トンブリ両都市間を結ぶ交通網整備のためチャオピア河地点に第一橋の架橋建設計画を立て地形、地質等の調査。 ②第2橋建設計画	42	〃	42.12. 3~43. 3. 9	8	17,262	
			43	〃				5,274
			43	実・設	43. 7.14~43. 8. 2	8	38,950	
			43	投	44. 3. 2~44. 4.13	9	6,457	
			44	実 施	44. 8. 9~44. 8.23	5	18,607	

開発調査事業

順	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
			44	報 告	45. 3.23~45. 4. 8	4	
12	地方都市水道施設拡張計画調査、同実施設計調査	東北地方ナコンラチャシマ市と北部地方チェンマイ市の上水道施設整備拡張計画に関するフィジビリティ調査。 ① 46年度事前調査結果の報告書を提出した。 ② 46年度に引き続いての実実施設計調査、およびそれに基づくドラフトによるタイ側への説明、討議を行うとともに、チェンマイ市についての実実施設計に関連する業務を行った。	45 46 47 47 47	実 施 報 告 実・設 報 告 "	46. 3. 8~46. 4. 4 46. 8. 8~46. 8.22 47. 6.26~47. 9.28 47.12.26~48. 1.19 48. 3.31~48. 4. 9	4 3 17 3 5	7,479 7,117 84,465
13	食肉加工業開発計画調査	口蹄病等の家畜伝染病の問題、食品衛生の処理面等現地調査。	46	事 前	46. 5. 9~46. 5.30	5	3,056
14	鉄道建設計画調査	① プレ・フィジビリティ調査 アジア鉄道幹線網の一環として考えられているバンコクからビルマ国境付近のメソドに至る鉄道路線の延長について輸送需要、路線踏査等の調査を行い、技術的、経済的に有利なルートを選定しようとするもの。 ② 鉄道改良計画調査 タイ国国鉄延長4,000 kmの区間にかかる214橋の補強、架け替え計画に係る調査。今回の調査は、本調査の実実施計画策定に必要な資料の収集、現地状況の確認、S Wの協議を実施。 50年10月に実施した事前調査の結果に基づき橋梁の現況調査を行い、改良つけ替えを必要とする橋梁について適切な措置を検討。	46 47 50 50 51 51	実 施 報 告 事 前 実 施 " "	46.11. 1~46.11.30 47. 7. 5~47. 7.14 50.10.19~50.11. 7 51. 2. 2~51. 3.31 51. 8.10~51. 8.24 51.11.15~51.11.23	8 3 4 13 5 5	10,786 2,483 2,827 23,634 80,927
15	バンコク首都圏電話網整備拡充計画実施設計調査	① 中継線関係実施設計 首都圏の電話網整備拡充計画のうち中継線関係の実実施設計調査を行い報告書を作成。 ② 市内電話線路網実施設計 バンコク首都圏は、人口約300万人に対し電話網整備状況は電話局数21局、端子数約16万であり、1972~76年の5カ年計画で電話局数40局、端子数30万と大規模な設備拡充をする計画である。これに伴ない市中心部の5電話局(K runkasem P loenchit Thungmahamek Trokchan Patunwan)について、市内線路網の実実施設計を行った。49年度は、前年度から引き続き現地調査を実施し、その結果に基づき実施設計の上、報告書を提出し完了した。 ③ 新設5、電話局市内線路網および中継網実施設計	47 47 48 48 49 49 49 51 51	実・設 報 告 実・設 " " " 報 告 実・設 "	47. 4.23~47.10.11 47.12. 5~47.12.19 48.12.13~48.12.21 49. 2.11~49. 3.31 49. 4. 1~49. 8.16 49. 6.27~49. 7.16 49.11.13~49.11.23 52. 2. 9~52. 2.23 52. 2.28~52. 3.31	13 2 4 12 (12) 5 3 4 7	50,718 24,984 99,879 34,088

開発調査事業

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
		④ 国内長距離市外電話網建設計画	52	実・設	52. 4. 1～52. 5. 31	(7)	} 226,940
			52	〃	52. 4. 11～53. 3. 29	28	
			53	実施設計 実施調査	53. 6. 28～54. 2. 20	28	
16	首都圏環状道路計画調査	バンコク・トンブリ両市にまたがる大バンコク圏の域内交通事情緩和のための環状道路建設計画についてのフィジビリティ調査を行い報告書作成。	47	実 施	47. 7. 20～47. 11. 17	16	31,417
			47	報 告	47. 12. 20～47. 12. 28	5	
17	バンコク・ドック建設計画調査	大型船を対象とする船舶修理施設の新設計画についてのフィジビリティ調査を行い、設置地点案としてチャオブラヤ川西岸河口付近を提案。	47	実 施	47. 7. 25～47. 9. 22	2	5,605
18	シーバース建設計画調査	シラチャ地区にシーバースを含めた石油精製基地建設計画に関するフィジビリティ調査を計画したが、タイ側の都合により測量のみ基礎調査を実施。48年度においてフィジビリティ調査。	47	〃	47. 9. 25～47. 10. 25	6	15,668
			48	〃	49. 1. 17～49. 2. 13	9	5,958
			49	報 告	49. 8. 28～49. 9. 5	3	4,419
19	バンコク首都圏水道施設建設計画調査	① 5地区水道拡張計画調査 首都圏周辺の各行政地区のうち5地区に対し、水道施設を建設する計画に対し調査しフィジビリティレポートを作成。 ② 残り4地区水道拡張計画調査 52年度10月「タ」政府に対する中間報告書説明及び現地補足調査を行い53年度は上記結果に基づき、最終報告書を完成した。	47	実 施	48. 3. 21～48. 4. 20	8	9,633
			48	報 告	49. 3. 10～49. 3. 16	3	18,750
			51	実 施	52. 1. 23～52. 3. 28	12	48,600
			51	報 告	52. 3. 13～52. 3. 18	3	
			52	〃	52. 10. 6～53. 11. 5	6	29,936
			53	〃	53. 5. 30～53. 6. 7	7	65,333
20	ターテン・メクロン川河川公害調査	タイ国においては、1973年5月、メクロン川に発生した製糖工場廃液による河川水質汚染問題を契機に公害問題が大きな問題となり、政府としても当面の対策を講ずる必要に迫られている。タイ国政府は、公害対策を必要とする11地区を指定しわが国の協力を要請したものである。 49年度は、タイ側の態勢、資料の整備状況等の現状を把握する等を目的として現地調査結果をとりまとめ報告書を作成した。	49	事 前	49. 6. 23～49. 7. 6	6	2,431
			50	〃			240
21	チャオピア川下流西岸地区かんがい農業開発調査	タイ国中央平野のチャオピア川下流西岸地区約12,300haとして、農業基盤整備及び農業普及、農民組織等の関連事業を含む農業総合開発計画を同国政府は策定した。その技術・経済面での実施可能性を検討するため、水文、水利、営農、経済立地等に係る調査を実施する。	51	実 施	51. 10. 18～51. 12. 25	17	37,209
			51	〃	52. 2. 6～52. 2. 12	4	
			52	〃	52. 4. 10～52. 4. 16	4	48,989

開発調査事業

派	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経 費 実 績 (千円)
タ イ	パタヤ地区基盤整備計画調査	バンコクの東約150kmのパタヤ地区の観光開発に係る基本計画の策定と開発に伴う基盤整備計画について調査を実施。 52年度はマスタープランを完成し、「タ」政府に提出した。 53年度はマスタープランに基づく第2段階としての基盤施設整備計画についてのP/S調査等を実施した。	51	事 前	51.10.21～51.11.3	6	59,301
			51	実 施	52.1.10～52.3.17	20	
			52	〃	52.8.18～53.2.11	26	103,167
			53	〃	53.5.10～53.11.7	27	173,056
23	職業訓練センター建設計画調査	第4次5カ年計画の一環として、タイ東北部の中心地コンケン市に職業訓練センターを建設する計画である。そのセンター建設のための基本設計調査を実施。	51	〃	52.1.24～52.2.8	10	28,597
			52	〃	52.7.13～52.7.22	5	8,397
24	カセサート大学施設整備計画調査	「タ」国はカセサート大学の農業研究及び農業普及の拡大強化に必要な施設・設備、教材及び無償及び技術協力を要請してきた。これに応え52年7月事前調査団を派遣し、その報告結果に基づき、50年10月、プライオリティーの高い中央総合研究 について、建物、必要な機材について基本設計を行った。 53年度は農業普及研修センター及び農機具センターの基本設計を行うとともに報告書ドラフト説明を行った。	52	事 前	52.7.17～52.7.31	7	
			52	実 施	52.10.17～52.10.31	11	40,576
			53	〃	53.11.5～54.3.6	10	27,257
25	メクロン川流域マスタープラン調査	メクロン川流域約50万haを対象とした水稲中心の農業開発計画マスタープラン策定を行うもので、52年度は事前、ひきつづき53年度実施調査を行った。	52	事 前	52.7.18～52.9.2	13	106,957
			52	実 施	52.12.13～53.3.25	21	
53	〃	53.7.12～53.2.28	30	147,251			
26	ベチャブン～チャイバダン間道路計画調査	「タ」政府の要請に基づきベチャブン市チャイバダン市間を結ぶ地域の道路を建設するための経済・技術的可能性を調査した。 52年度は意見交換・資料収集等事前調査、53年度はひきつづきP/S調査を行った。	52	事 前	53.2.6～53.2.26	5	3,327
			53	実 施	54.7.17～54.1.30	17	105,415
27	AIT附属図書館建設計画	The Asian Institute of Technology はタイ政府の特別立法に基づき設定された高等教育機関で、各国からの拠出により1967年11月開校し、諸施設が順次整備中であるが、さらに図書館を整備することとし、この基本設計について協力要請があった。このため現地調査のうえ、本図書館の基本設計報告書の作成を行った。	53	〃	53.5.28～53.8.27	8	31,480
28	技術協力調査	「タ」政府に対するわが国の技術協力の効果的実施を図るため、現状と問題点の協議及びプロジェクト選定確認調査を実施した。	53	事 前	53.5.17～53.5.21	3	1,144

開発調査事業

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
29	首都圏交通計画	「タ」政府の要請に基づき首都圏交通問題解消のため首都圏開発計画をふまえ、都心部と郊外ならびに郊外周辺都市圏の公共輸送交通網整備にかかるマスタープラン作成を行う。	53	実 施	53. 7.12～53.12.30	16	76,946
30	カンパセンかんがい農業開発計画	ナコン、チャイシ川の西岸に接する約37,000haを対象としたメクロン川流域のマスタープランの一環として当かんがい農業開発計画に係るS/W協議を行った。	53	〃	53.12. 5～53.12.14	3	38,095
31	トラックターミナル建設計画調査	「タ」国は都市交通問題改善の一環として貨物輸送に関するターミナル建設のD/S調査を要請してきた。これに応え本調査に先立ち、意見交換・資料収集等事前調査を実施した。	53	事 前	54. 1.22～54. 2. 3	5	2,391
32	メワンかんがい農業開発計画調査	「タ」国は北部地方メワン地区における農業開発計画につきわが国にD/S調査を要請してきた。53年度は本調査に先立ち、意見交換・資料収集等事前調査を実施した。	53	〃	54. 2.22～54. 3.14	5	3,424
33	バンコック市下水道及び都市廃棄物整備計画調査	「タ」国は都市社会問題化しつつある首都バンコック市の当該計画についてわが国に要請してきた。これに応え、意見交換・資料収集等事前調査を実施した。	53	〃	54. 2.28～54. 3. 7	3	997
34	青少年福祉センター建設計画調査	(ビルマ、タイ) アジア一般を参照のこと。	53	〃	53. 9.19～53.10. 4	(3)	1,625
35	海底ケーブル建設計画調査	(マレーシア、シンガポール、タイ) アジア一般を参照のこと。	52 53	〃 実 施	53. 2.23～53. 3.16 53. 4.23～53. 8.31	(7) (10)	(2,665) (49,830)

タ
イ

海外開発計画調査事業

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	木材利用工業開発計画調査	(パキスタン、タイ) アジア一般を参照のこと。	38	海	38.12.15~39. 2. 9	(5)	(2,893)
2	東南アジア6カ国鉄鋼業開発拡充計画調査	(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、台湾) アジア一般を参照のこと。	43	〃	43. 6.19~43. 7.11	(8)	(2,014)
			43	〃	43. 7.22~43. 8.14	(8)	
3	東南アジア鉱工業プロジェクト選定確認調査	① (マレーシア、フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。 ② (インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ) アジア一般を参照のこと。 ③ (インドネシア、マレーシア、ネパール、タイ) アジア一般を参照のこと。 ④ (インドネシア、マレーシア、ネパール、タイ) アジア一般を参照のこと。	41	〃	41. 7.19~41. 8.12	(2)	(1,196)
			47	〃	47. 5.31~47. 6.20	(2)	(238)
			48	〃	48. 5.27~48. 6.15	(2)	(600)
			50	〃	51. 2.22~51. 3.15	(2)	(488)
4	鉱物資源開発計画調査	タイ北西部地域において銅、スズ、鉄、アンチモニ、マンガン等の鉱床を調査しその開発の可能性の検討。	37	〃	37.11.24~38. 2.21	9	7,977
			38	〃			313
5	ナムサイヤイ電源開発計画調査	バンコク東方約150 kmの地点にあるナムサイヤイ流域を踏査して、電源開発計画の開発方針の検討とフィジビリティ調査。	39	〃	40. 2.11~40. 3.27	6	4,217
			40	〃			792
			42	〃	42.10.16~43. 3.13	8	6,303
			43	〃	43.10.20~43.11. 3	1	9,742
6	ナムボン上流域開発計画調査	電力需要の増大に備えるためNam Phram、 Nam Cheruの2水力発電計画に関する予備調査。	41	〃	41. 6.15~41. 7.16	2	8,932
			41	〃	41.11.26~42. 3. 8	7	
			42	〃			8,857
7	工業団地開発計画基礎調査	第2次経済開発計画による工業団地造成のためバンコクとその周辺、東北及び北タイの開発地域についての基礎調査。	44	〃	44.11. 5~44.12. 4	9	9,203
8	クロンクダン及びナムバイ水力開発計画調査	バンコク北方のクロンクダン・サイト及びナムバイサイトにおけるダム建設計画に関し、前者についてはプレ・フィジビリティ調査、後者については踏査の実施。	45	〃	46. 2. 3~46. 3.19	5	4,972
			46	〃			13,101
9	クワイヤイ及びラグー川水力発電開発計画調査	① クワイヤイ上流地域についての概括的踏査及びラグー地区を中心とするフィジビリティ調査。 47年度においてクワイヤイ上流地域における水力発電開発計画策定のための基礎調査及び資料収集とラグー地域における同計画策定のための水文、地形地質等の現地調査と資料収集を実施した。48年度においてはその調査結果をとりまとめ、クワイヤイ上流地域についてはレコネッサンス報告書を、ラグー計	47	〃	48. 2. 6~48. 3.29	7	11,694
			48	〃			15,645

海外開発計画調査事業

№	プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査期間	調査団派遣人員	経費実績 (千円)
		画については、プレ・フィジビリティ報告書を作成した。					
		② クワイヤイ川調整池計画調査	50	海	50.11.12～50.12.26	6	43,723
		クワイヤイ川に建設する逆調整池と揚水発電用貯水池等を兼ねる調整池プロジェクトのF/Sを実施。	51	〃	51.9.12～51.9.18	1	15,914
10	クワイヤイ川上流水力発電開発計画調査	上記予備調査ならびに昭和52.5.3年度のタイ国の要請により個別専門家を派遣した結果、本格水力発電調査が要請された。これに応じてF/S調査を実施した。	53	〃	54.3.6～54.3.29	5	8,829
11	バンコック首都圏都市ガス供給計画調査	バンコック首都圏の都市燃料の安定供給を図るため、現在の都市燃料(LPG・木炭)を都市ガスへ転換するために、将来における都市ガスの需要予測を行うと共に、供給計画を策定のうえ技術的、経済的検討を加え、本計画に関するフィジビリティ調査を実施した。	49	〃	49.9.20～49.12.24	13	54,307
			50	〃	50.10.26～50.11.1	1	6,331
12	家具産業振興計画調査	タイ国の木製家具産業の振興を図るため、同国の木製家具産業の背景と現状を把握し、そのデザイン、製造技術などの改善を図り、輸出品として耐えうるような製品の生産を目的として現地調査を実施した。	49	〃	50.3.11～50.3.30	8	9,909
			50	〃			828
13	東北部工業開発計画調査	51年3月派遣したプロジェクト調査団に対し、同国東北部の工業開発計画推進のための技術調査団派遣を要請してきた。これを受け調査団を派遣した結果、工業団地を中心に位置づけることは、現在のところ時間尚早との結論に達し、実施調査は見送ることとなった。	52	〃	52.10.26～52.11.8	4	4,674
14	Mae Moh肥料工場修復計画調査	同工場はタイ国の唯一の化学プラントで1965年より開始しており、最近ひんぱんに事故が発生し設計ベースの30%操業となっている。これに対処するためわが国に技術協力を要請してきた。これに応えS/W調査及び53年には修復計画報告書を作成した。	52	〃	53.2.19～53.3.18	8	12,976
			53	〃	53.6.25～54.3.27	9	47,715
15	冷間圧延工場建設計画調査	同国が全量輸入している薄鋼板を製造用冷間圧延工場建設計画に対し、企業化可能性調査のため事前調査を実施した。	53	〃	53.10.22～53.10.31	2	743
16	一貫製鉄所建設計画調査	同国ラム・チャバン、サタヒップにおける直接還元法、一貫製鉄所の企業可能性調査を実施した。	53	〃	54.2.18～54.3.10	13	44,616

海外開発計画調査事業

№	プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査期間	調査団派遣人員	経費実績(千円)
17	ソーダ灰工場新設計画調査	タイ政府より要請のあった当該工場新設計画について、意向を正確に把握する必要があるため昭和53年度予備調査を実施した。	53	海	54.3.20～54.3.29	6	6,324
18	資源開発協力基礎調査	(ネパール、ビルマ、タイ、オマーン) 世界一般を参照のこと。	53	〃	53.11.8～53.12.6	(6)	(1,214)

開発協力事業
開発基礎調査

№	プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査期間	調査団派遣人員	経費実績(千円)	
1	とうもろこし開発協力事業	昭和50年3月に実施された開発基礎調査に基づき、タイ国のとうもろこし開発に関する計画に対し、日本側がすでに実施している資金協力、実施しようとしている技術協力事業を踏まえて、更に拡大することの可能性、日本側協力のあり方を、資金、技術等に関し総合的に検討し具体的方策を策定することを目的として、とうもろこし増産に必要とされるかんがい、栽培技術、流通組織等の問題点とその対策を調査し、すでに実施している農協間協力事業の拡大と資金協力の具体的計画を策定するため、主としてACFT (Agricultural Co-operatives Federation of Thailand)、BAAC (Bank of Agriculture and Agricultural Co-operatives) 等との協議と農協間協力としての全農プロジェクトの現地事情の調査が実施された。	49	開発基礎調査	50.3.3～50.4.1	8	5,381	
			50	(同上報告作成)				590
			51	開発計画調査	51.9.17～51.10.2	5+(2)	4,465	

投融資審査等調査

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経 費 実 績 (千円)
1	農業開発投融資審査等 調査	(マレーシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	50	投融資審 査等調査	50.10.14～50.11. 2	(3)	(894)
2	農業開発投融資審査等 調査	(タイ、オーストラリア) 世界一般を参照のこと。	50	投融資審 査等調査	50.11.22～50.12. 8	(4)	(1,666)
3	投融資審査等調査	(マレーシア、タイ) アジア一般を参照のこと。	51	投融資審 査等調査	51.11. 7～51.11.21	(3)	(861)
4	農業投融資審査等調査	(インドネシア、タイ、フィリピン) アジア一般を参照のこと。	52	投融資審 査等調査	52.10. 4～52.10.25	(5)	(1,071)
5	投融資審査等調査	(フィリピン、タイ) アジア一般を参照のこと。	52	投融資審 査等調査	52.10.12～52.10.29	(3)	(1,083)

タ

イ

開発協力技術指導
その1 専門家派遣

プロジェクト名	年 度	人 数	派 遣 期 間	経費実績(千円)
とうもろこし	53	1	54. 3.31 ~ 54. 3.31	640

その2 研修員受入

研 修 科 目	年 度	人 数	研 修 期 間	研 修 場 所	経費実績(千円)
農協を通じる農業開発プロジェクトリーダー養成	49	3	50. 3. 5 ~ 50. 3.28	(株)アジア農業協同組合振興機関	1,134
農協を通じる農業開発プロジェクトリーダー養成	50	10	50. 6.17 ~ 50. 7.16	〃	4,508
農協を通じる農業開発プロジェクトリーダー養成	51	15	51. 6.15 ~ 51. 7.14	〃	7,179
農協を通じる農業開発プロジェクトリーダー養成	52	15	52. 6.13 ~ 52. 7.12	〃	8,548
農協を通じる農業開発プロジェクトリーダー養成	53	15	53. 6.25 ~ 53. 7.25	〃	9,400

開発投融資

事業名	融資承認年月日	融資承諾額(百万円)	事業地	対象事業	事業名	融資承認年月日	融資承諾額(百万円)	事業地	対象事業
クンワバと製糖開発事業	46. 2. 5	96.6	ウドン県	基幹農道					
クンワバと製糖開発事業	48. 3.19	40	ウドン県	道路橋					
クンワバと製糖開発事業	51. 2. 4	217	ウドン県	道路、井戸					
とうもろこし開発事業	50. 3.28	227	タイ中北部	2,222 haとうもろこし生産					
チェンマイ試験造林事業	51. 2.23	79.6	チェンマイ	325 haの九重桐試験造林					
パイナップル開発事業	52. 2.26	186	ブランブリ地区	道路、診療所、給水施設、技術訓練所					
パイナップル開発事業	53.10. 1	150	〃	〃					
ブランブリ砂糖開発事業	52. 8. 3	300	〃	道路、橋梁					

タイ王国 Kingdom of Thailand

首都：バンコク

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨	開発段階における国の分類				その他		
							PDO	LLDC	MSAC	UNCTAD	世帯	OPEC	OAPEC
542,373km ²		立憲君主制	仏教(含他教)95% (回教4%、キリスト教0.6%、その他)	タイ語	タイ族(シム族・ラオ族) 80% 華僑 10%、マレー族・山岳少数民族等 10%	Baht又はTical (B又はTc) =100 Satang	O			A	O		

I 国別主要指標

(1) 社会指標

① 年央推計人口

単位：1000人

年	1950	1955	1960	1965	1970	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
人口		20,302	26,392	31,030	36,370	38,530	39,630	40,740	41,870	42,960	43,326	44,345

② 人口増加率

単位：(%)

年	1960~1975	1970~1977
人口増加率	3.1	2.8

人口密度

人数/km ²	81.4
調査年	1977

③ 出生死亡率

人口1,000人あたり
出生・死亡数

年	1970	1974	1975	1976	1977
出生率	31.5	30.8			
死亡率	6.5	6.4			
乳児死亡率	25.5	21.8			

④ 主要都市人口

都市	調査年	人口(1000人)
バンコク	1970	1,857
トンブリ		628

(2) 経済指標

① 国民総生産・国際収支

項目	単位	年								
		1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	
GNP	総額	百万ドル			11,010	12,710	14,350	16,300	18,660	21,790
	国民1人当り	ドル			280	310	340	380	430	490
公定歩合	%	9.00	8.00	10.00	11.00	10.00	9.00	9.00	12.50	
国際収支	総合収支	百万ドル	-3	212	219	475	-52	79	10	-28
	経常収支		-175	-51	-46	-87	-607	-469	-1,087	-1,194
	貿易収支		-350	-279	-320	-388	-662	-222	-790	-877
	基礎収支		-95	105	54	301	-352	-150	-640	-532
	長期資本収支		80	156	80	388	250	519	446	662
歳入		19,088	21,329	25,346	38,187	39,314	43,521	51,673	61,685	
歳出		26,935	28,833	30,519	36,182	46,464	59,665	63,081	76,797	
デット・サービス・レシオ	%	5.3	2.8	2.7	2.0	2.6	2.5	3.0		
国際通貨準備高	合計	百万	877	1,052	1,306	1,858	1,775	1,893	1,915	2,121
	金		89	89	99	100	96	95	102	111
	S・D・R		16	31	34	36	35	34	37	35
	IMRポジション		36	36	40	41	39	39	41	
外国為替保有高	百万	736	896	1,132	1,681	1,605	1,725	1,735		
公的債務残高	百万	535.0	661.7	750.0	1,122.6	1,273.3	1,618.9	2,263.0		
公的債務支払高	百万	359.6	396.3	450.6	513.4	615.5	821.7	1,051.0		

② 国内総生産

*アジア開発銀行IS=20.45 Baht

項目	単位	年							
		1960	1970	1973	1974	1975	1976	1977	
GDP	合計	百万ドル	2,560	6,541	10,486	13,201	14,318	16,244	18,114
	1人当り	ドル	96	181	264	322	342	378	410
GDP指数	合計	%	47	100	124	130	137	149	-
	1人当り	%	64	100	113	115	119	126	-
GNP実質成長率	合計	%	1960~1970		1970~1977				
	1人当り	%	8.2		7.0				
			5.0		4.1				

③ 国内総生産構成比

単位：(%)

年	国内総生産(通貨単位)	政府最終消費支出	民間最終消費支出		在庫増	総固定資本形成	輸出入	
			合計	製造業			財貨	サービス
1960	54.0	10	73	2	14	17	19	
1965	68.1	10	73	4	18	16	20	
1970	136.1	11	68	2	24	17	22	
1974	269.0	10	65	3	22	23	25	
1975	296.3	11	67	4	23	21	24	
1976	332.2	11.9	66		25			
年	国内総生産(通貨単位)	農業	工業		建設業	卸小売業	運輸業等	その他
			合計	製造業				
1960	54.0	40	14	13	5	18	7	16
1965	68.1	36	16	14	5	19	7	17
1970	136.1	28	19	16	6	25	6	17
1974	269.0	32	20	17	4	23	6	16
1975	296.3	31	20	18	4	21	6	17
1976	332.2	31	21	18	5	21	6	16

④ 国民所得

項目	年	単位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
国民所得総額		100万ドル	6,434	7,115	9,750	12,416	13,522	15,059	
1人あたり国民所得		ドル	172	184	245	304	323	351	

出所：国連

⑤ 年平均インフレ率

1970~77(%)	9.3%
------------	------

出所：世銀

⑥ 種類別公的対外債務残高の内訳

年現在	単位	債務残高(ディスバースメント)	債務残高(コミットメント・ベース)					公的対外債務返済額の総輸出額に占める比率				
			合計	二国間	多数国間	サプライヤー	銀行	その他	1973年	1976年	1977年	1978年
1975年12月末	百万ドル	615.5	1,293.2	416.8	808.6	22.0	45.8		1973年	2.6	1976年	2.4
1976年12月末	百万ドル	821.7	1,618.9	442.0	1,021.1	17.0	138.7		1974年	1.9	1977年	3.0
1977年12月末	百万ドル	1,050.6	2,263.0	607.7	1,183.4	13.2	458.7		1975年	2.4	1978年	

出所：世銀

⑦ 卸売物価指数

1970=100

項目	年	1965	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
総合		84	100	108	133	171	178	185	195
農産物			98	109	134	170	189		
建築材料		98	97	101	136	170	189	192	202
繊維品		98	101	104	121	150	132	136	146

*1968年以前、基準1969年=100バンコックのみ a) 1967年以前は綿の反物

⑧ 消費者物価指数

1970年=100

項目	年	1965	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
総合		88	102.0	106.1	118.6	146.2	152.2	160	173
食料		81	101	107	123	157	164	173	193

*1~9月平均 出所：アジア開発銀行、国連

③ 貿易指標

① 総合

項目	年	単位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
輸出総額		百万ドル	851	1,081	1,564	2,444	2,208	2,980	3,491	4,203
輸出依存度		%	12.0	13.7	14.9	18.4	15.4	18.8		
対日輸出額		百万ドル		252	394	686	724	848	748	843.00
輸入総額		百万ドル	1,288	1,484	2,049	3,143	3,280	3,573	4,575	5,360
輸入依存度		%	18.6	18.8	19.5	23.7	22.9	22.6		
対日輸入額		百万ドル		522	720	951	959	1,070	1,360	1,528.00

出所：国連

(輸出・依存度は国民総生産に対する輸出額(fob)・輸入額(cif)のそれぞれの割合)

② 主要相手国別輸出入構成 1976年

単位：%

輸出入	相手国		日本	オランダ	米 国	シンガポール	インドネシア
	輸出	シェア	26	11	10	7	6
輸入	相手国	日本	米 国	サウジアラビア	西 独	カタール	
	シェア	32	13	7	5	4	

出所：国連

③ 主要輸出品目の構成比 1976年

単位：%

品 目 名	米	タバコ製品	砂 糖	トウモロコシ	ゴ ム
構 成 比	14	12	11	9	9

出所：国連

(4) 農業・林業・水産

① 農業生産指数 (1969~1971年=100)

単位：(%)

項目	年	1970	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
総合		100	103	120	117	122	128	129	
食料		99	105	123	120	126	132	133	

総合は食料品目の他、繊維、茶、コーヒー、煙草、工業用油料種子及びゴムを含む。 出所：FAO

③ 農林業用地・生産

項目	年	単位	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	備考
総面積					51,400			(含む内水面)
耕地	ハ		12,500	14,800	15,750			(二毛作地は1回のみの計上)
樹園地	ハ		1,600	1,780	1,900			(栽培地)
牧場・牧草地	ハ		308	308	308			(5年以上使用の6の)
森林	ハ		20,700	20,500	20,950			(自然木、栽培地)
その他	ハ		16,292	15,789	12,269			(建築物敷地、道路、公団、内水面)
農家人口	1000人		28,552	35,590	34,495			
(農業生産)								
米	1000t		13,386	15,300	15,070	13,921	15,500	
小麦	ハ							
とうもろこし	ハ		2,550	5,026	2,675	1,677	3,000	
馬鈴薯	ハ							
大豆	ハ		152	114	114	98	120	
コーヒー	ハ							
キャッサバ	ハ		6,240	8,160	10,138	12,572	10,700	
茶	ハ							
砂糖キビ	ハ		13,110	19,009	26,094	18,941	26,000	
粗糖	ハ							
棉花	ハ		20	11	27	*	23	

*推計値

④ 肥料消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
窒素肥料	1000t	*	42.5	60.2	79.8	78.9	135.7	
磷酸肥料	ハ	**	23.5	51.4	70.4	62.3	80.5	
カリ肥料	ハ	**	15.0	38.4	50.9	39.1	20.5	

*概数 調査年は翌年6月30日に終る肥料年度

出所：国連

⑥ 漁獲

項目	年	単位	1971	1973	1974	1975	1976	1977
漁獲量	1000t		1,586.9	1,678.8	1,515.5	1,369.9	1,640.4	1,778.1

出所：FAO

② 1人あたり食糧生産指数

1969~71=100%	
1975~77年平均	110

出所：世銀

項目	年	単位	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	備考
葉煙草	1000		56.0	68.7	73.0	67		
天然ゴム	ハ		379.2	348.7	392.5	426.4	460.0	
馬	1000頭		168	167	167			
牛	ハ		4,355	4,437	4,296			
水牛	ハ		5,952	5,947	5,576			
豚	ハ		4,460	3,516	4,300			
ニワトリ	ハ		61,816	47,805	55,800			
羊	ハ							
羊毛	1000kg							
皮革	ハ							
牛乳	ハ							
鶏卵	ハ		125.0	132.0	140.0			
砂糖	ハ		968	1,106	1,604	2,561		
バナナ	ハ		1,300	* 1,300	1,464	1,546		
ジャート	ハ					237		
コブラ	ハ		385	* 385	430			
原木	ハ		21.8	21.8	21.1			

出所：国連 FAO

⑤ 立木伐採

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
総計	1000m ³		18,745	19,525	20,844	20,719	21,119	
工業用材	ハ		4,295	4,475	5,366	4,934	5,028	

出所：FAO

⑤ 鉱・工業，エネルギー

① 鉱・工業生産指数 1970 = 100

単位：(%)

項目	年	1960	1965	1971	1973	1974	1975	1976	1977
総合(建設を除く)									
鉱業									
製造業									
電気・ガス・水道									
建設									

出所：国連

② 鉱業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	1978
石炭	1000t					8		
原油	〃	6	6	6		8		
天然ガス	100万m ³							
マンガン鉱	1000t	12.9	50.1	24.1	50.1	76.9	64.7	
鉄鉱	〃	21	36.5	32.5	25.0	63.5	59.4	
銅	〃							
亜鉛	〃	0.1	35.5	4.5				
錫精	t	20,921	27,767	22,397	27,921	24,205	27,307	
ニッケル	t							
ボーキサイト	1000t							
クローム	〃							
螢石	〃		428.7	286.1	200.4	239.8	185.9	
金	kg							
銀	t							
燐鉱石	1000t							
タンングステン	t	2,733	4,286	3,441	3,986	4,275	4,889	
鉛	1000t	3.5	3.6	3.6	2.1	1.3	3.5	

*1 資料：合衆国鉱山局

*2 生産高のものと数字は容積単位である。

*3 精鉱中の含有量

出所：国連

③ 原材料消費

品目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
銅	1000t	745	954	885	845	1,377			
鉛	t	246	330	322	252	169			
ゴム	1000t								
合成ゴム	〃								
棉花	〃	65.0	93.2	71.6	86.7	97.6			
羊毛	100t								

出所：国連

④ 主要資源埋蔵量

品目	年	単位	埋蔵量			備考
			1975	1976	1977	
鉄鋼		100万t				159,679
銅		〃				67,500
天然ガス		10億m ³				
天然ウラン		1000t				

カリ鉱石(1977) 850億t

⑤ 工業生産

品目	年	単位	1975	1974	1975	1976	1977	1978
煙草	100万本	19,422	20,217	22,618				
生糸	1000t							
毛織物	1000m ²							
綿糸(純)	1000t	10.8		67.0				
織物純交織	100万m ²	474	582	654	768	807		
ガンリン	1000t		4,908	5,382				
重油	〃	5,413	4,908					
灯油	〃	747	768	715				
塩	〃			55.7	59.3			
錫	トン	22,927	27,767	22,397	27,921	33,044	27,307	
亜鉛	1000t							
アルミニウム	〃							
銅	〃							
鉄・合鉄	〃	14	16	16	18			
粗鋼	〃	40						
セメント	〃	3,706	3,923	3,959	4,422	5,063	4,611	
自動車	1000台	17.9	17.6	15.5				
ラジオ	〃							

*1 綿屑から紡がれた糸を除く

*2 1971年

*3 仕上工程を経たもの

*4 1970年

*5 組立高

出所：国連

⑥ エネルギー・生産・消費

単位：石炭換算 100万t

項目	年	1960	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
生産			0.37	0.41	0.48	0.46	0.68		
消費			8.79	12.50	12.33	11.90	13.22		
1人あたりキログラム			308		300	284	308		

*1972年

② 発 電

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
発 電 量		KWh 100万	4,545	7,329	7,789	8,866	10,295	11,691
(内 水 力)		"	1,787	1,880	* 2,446	2,550		
1人あたり発電量		KWh	107	140	190	* 189	240	
発 電 能 力		KW 1000	1,044	1,405	2,432	* 2,500	2,775	2,820
(内 水 力)		"			* 910	950		
電 力 消 費 量			5,805	6,190	6,525	7,473	8,597	

*自家発電を除く 出所：アジア開発銀行、国連

(6) 運 輸

① 道 路

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
道 路 延 長		Km				50,331	32,092	30,998
舗装道路延長		Km				15,993	16,328	17,142
舗 装 率		%				52.7	50.9	55.3

出所：I R F

③ 鉄 道 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
車 両 数		台						
機 関 車		"		467		507		
客 車		"		985		1,001		
貨 車		"		9,178		9,631		
輸 送 量		100万						
旅 客		人・Km (100万)	4,152	4,771	5,668	5,705	5,531	
貨 物		トン・Km (100万)	2,290	2,301	2,347	2,358	2,630	

アジア開発銀行 出所：国連

② 自動車保有台数

種別	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
乗 用 車		1000台	185	171		266		
1台あたり人口		台/人			218.3	157.3		
商 用 車		1000台	163	170		267		

*商用車はトラクターとセミトレーラーの台車を除く。

出所：国連

④ 海 上 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
積 荷		1000t	5,962	8,349	9,905		12,665	
揚 荷		"	8,865	12,809	11,578		13,687	
入 港 船 隻		"			8,147		9,473	

⑤ 航 空 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
旅 客		人・Km (100万)	785	1,750	2,845	4,288	4,662	
貨 物		トン・Km (100万)	10	28.7	58.8	101.7	122.3	
郵 便		"	1.0	3.0	4.5	5.0	4.5	

出所：アジア開発銀行、国連

(7) その他の社会指標

① 1人あたりカロリー、蛋白質摂取量

項目	1974		1972~1974		1976		1977	
	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合
カロリー	2,210	8%	2,301	7.0%				
蛋白質	51g		49.5g	26.7%				

③ 出生時平均余命、出生率、死亡率

調査年	単位	男	女	平均
出生時平均寿命 1977年	才			61
人口1,000人当りの普通出生率	‰	1960		46
	‰	1977		32
人口1,000人当りの普通死亡率	‰	1960		17
	‰	1977		8

出所：世銀

② 在学率・文盲率

単位：(%)

項目	1970			1973			1975					
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均
在学率	59.6	34.6										
文盲率	12.8	29.7										
識字率	-	-					82					

* 6~24歳

出所：国連

④ 病院施設

項目	年	単位	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
病院数						615			
病床数		床				51,435			
1ベットあたり人口		人				774			
医師1人あたり人口		人					8,374	8,460	

出所：国連

⑤ 新聞発行・新聞用紙消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
人口1000人当り新聞発行数		部	24					143
用紙消費量(総計)		1000t	36.3	55.6	55.6	63.4	65.4	
1人あたり消費量		kg	1.0	1.4	1.4	1.5	1.5	

出所：国連

⑥ 放送受信機・電話普及率

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
ラジオ		台/1000	2,775	3,009	5,111	5,500		6,310
人口1000人あたりラジオ保有台数		台	78	76	126	131		
テレビ		台/1000			715			898
人口1000人あたりテレビ保有台数		台			17			
電話普及台数(人口1000人あたり)		台	0.4	0.6	0.7	0.7		0.8

出所：国連

⑦ 水道、電気、住宅

項目	年	単位	1970	1975		備考
浄水受給者の対人口比		%		22		
電灯普及率		%				
1部屋当り平均人員		人				

出所：国連

II 経済技術協力

(1) 開発途上国の援助受取高と債務

① 開発途上国援助受取高

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
総受取高 Net	140.98	189.7	207.3	272.7	613.0
政府開発援助受取高 Net	71.99	89.6	169.2	131.9	236.9
(内) 二国間援助受取高 Net	63.53	73.5	70.8	84.0	149.2
技術協力受取実績 Net	40.31	42.48	40.34		

② 政府開発援助の条件(コミットメント)

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
O D A 計				200.90	287.7
贈 与				53.09	76.5
借 款				147.81	211.1
借款のグラントエレメント(G・E)%				51.37	52.8
ODAのグラントエレメント(G・E)%				64.22	65.4

③ 開発途上国の債務

単位：100万ドル

事 項	1975年末現在	1976年末現在	1977年末現在	1978年現在
贈与受取高(累計1960～)	672	811	874	
直接投資残高	330	350	400	
債務(支払ベース)				
総 計	994	1,050	1,815	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	116	230	297	
債務返済高				
総 計	186	188	401	
DAC諸国政府開発援助に対する債務	16	20	21	
債務返済率	6			

② DAC 諸国の経済協力

① 経済協力総額

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 援 助 (ネ ット)	オーストラリア	4.1	6.9	5.9	5.4	8.9	9.2	8.8		
	オーストリア	10.9	0.6	-0.6	1.8	-2.9	-1.9	-2.0		
	ベルギー	7.5	2.2	-1.2	2.8	3.7	5.4	-2.4		
	カナダ	1.1	0.7	0.4	0.3	0.3	9.5	-5.4		
	デンマーク	*	-1.0	-0.8	21.6	-0.4	0.3	-2.9		
	フィンランド		*	*	*	*	0.1	0.1		
	フランス	-0.6	5.9	5.9	76.7	11.6	21.8	5.4		
	西ドイツ	3.5	1.4	-16.0	-11.9	-1.1	-2.8	-1.9		
	イタリア	1.5	0.5	-7.6	5.5	-0.1	-0.9	-0.5		
	日本	74.9	1.7	7.7	29.9	49.9	76.2	37.9		
	オランダ	0.8	0.7	1.1	1.5	2.0	1.8	1.6		
	ニュー・ジラランド			0.6	1.0	1.6	1.6	1.5		
	ノールウェー	*	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1		
	スウェーデン		-0.1	-0.1	-0.1	-	-0.1	0.4		
	スイス	1.5	0.4	2.2	21.3	4.1	-29.6	-0.2		
	イギリス	16.4	15.2	11.7	6.4	-0.2	0.6	2.9		
米 国	46.0	23.0	14.0	25.0	20.0	13.0	-5.0			
	計	167.4	43.0	21.3	174.4	97.5	104.4	38.4		
国 際 機 関 (ネ ット)	AF. D. B.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.	1.6	2.5	1.6	4.6	15.0	34.8	43.7		
	CAR. D. B.							*		
	C. E. C.									
	E. I. B.									
	I. B. R. D.	17.7	11.7	22.7	26.9	21.4	26.1	26.5		
	I. D. A.				0.2	1.3	2.7	6.4		
	I. D. B.									
	I. F. C.	8.0	-1.8	-4.5	-2.5	-1.5	8.5	-2.2		
	O.A.P.E.C.									
S.A.A.F.A.										
U. N.	4.7	5.2	5.6	5.5	7.1	13.5	15.9			
	計	32.0	17.6	25.4	34.5	43.3	85.6	90.3		
OPEC (二国間)								95.6		
合 計		199.4	60.6	45.7	208.9	140.8	190.0	204.3		

② 政府開発援助

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 援 助 (ネ ット)	オーストラリア	3.8	4.9	4.3	5.9	5.2	5.5	6.4	7.9	
	オーストリア	4.9	-0.6	*		0.1	-1.2	*	0.2	
	ベルギー	*	*	*	0.1	0.1	0.2	0.5	0.2	
	カナダ	1.1	0.8	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	
	デンマーク	0.5	0.6	0.9	1.1	1.2	1.7	1.2	1.4	
	フィンランド		*	*	*	*	0.1	0.1	*	
	フランス				5.0	9.7				
	西ドイツ	3.2	1.4	0.7	0.1	1.5	5.3	5.7	6.8	
	イタリア	*	*	0.1	*	*	*	*	*	
	日本	16.9	15.5	15.5	17.6	17.4	41.2	43.1	51.8	
	オランダ	0.8	0.7	1.1	1.5	2.0	1.8	1.6	2.2	
	ニュー・ジラランド			0.6	1.0	1.6	1.6	1.5	2.2	
	ノールウェー	*	*	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	
	スウェーデン					0.2				
	スイス	*	0.1	0.1	*	*	0.2	0.2	0.3	
	イギリス	1.2	1.2	1.5	2.8	6.2	3.7	1.0	2.4	
米 国	37.0	33.0	23.0	24.0	18.0	13.0	9.0	9.0		
	計	69.4	57.6	48.3	55.5	65.7	73.5	70.7	83.9	
国 際 機 関 (ネ ット)	AF. D. B.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.						0.1	0.5	0.8	
	CAR. D. B.							*	0.1	
	E. E. C.									
	I. D. A.				0.2	1.3	2.7	6.4	8.8	
	I. B. R. D.								1.7	
	I. M. F.									16.7
S.A.A.F.A.										
U. N.	4.7	5.2	5.6	5.3	7.1	15.5	5.9	19.4		
	計	4.7	5.2	5.6	5.5	8.4	16.3	22.8	47.5	
OPEC (二国間)								75.6	0.3	
合 計		74.1	62.8	53.9	61.0	72.1	89.8	169.1	131.7	

③ 技術協力

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 (ネ ッ ト)	オーストラリア	1.7	1.5	1.4	1.4	2.5	2.9	2.4	3.1
	オーストリア	0.2	0.1	*		0.1	0.1	*	0.2
	ベルギー	*	*	*	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
	カナダ	0.9	0.6	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.2
	デンマーク	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5
	フィンランド			*	*	*	0.1	0.1	*
	フランス								
	西ドイツ	3.1	4.1	4.5	4.6	5.7	6.0	6.1	7.0
	イタリア	*	*	0.1	*	*	*	*	*
	日本	2.4	3.4	3.7	5.0	5.1	5.6	8.3	11.1
	オランダ	0.8	0.7	1.2	1.6	2.0	1.8	1.6	1.8
	ニュー・ジージラント			0.5	0.7	1.2	1.4	1.5	1.6
	ノールウェー	*	*	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3
	スウェーデン					0.2			
	スイス	*	0.1	*	*	*	*	0.1	0.1
	イギリス	1.2	1.2	1.5	1.5	1.6	1.1	1.0	1.1
	米 国	53.0	51.0	24.0	20.0	14.0	9.0	5.0	4.0
計	43.8	43.6	37.7	35.8	33.2	28.9	27.0	31.2	
国 際 機 関 (ネ ッ ト)	A.S.D.B.								0.6
	E.E.C.								
	I.D.B.								
	O.A.P.E.C.								
	S.A.A.F.A.								
	U.N.	4.7	5.2	5.6	5.3	7.1	13.5	15.2	19.4
計	4.7	5.2	5.6	5.3	7.1	13.5	15.2	20.0	
合 計	48.5	48.2	43.3	41.1	40.3	42.4	42.2	51.2	

③ 共産圏諸国からの開発援助受取額

単 位	1954年～1971年	1972	1973	1974	1975	1976	1977
100万 ド ル							

④ 政府貸付

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 (ネ ッ ト)	オーストラリア								
	オーストリア	4.8	-0.7				-1.3		
	ベルギー								
	カナダ	0.1	0.1						
	デンマーク			0.2	0.4	0.6	1.1	0.7	0.6
	フィンランド								
	フランス				3.0	9.7			
	西ドイツ	0.1	-2.6	-5.8	-4.6	-4.2	-0.7	-0.8	-0.4
	イタリア								
	日本	14.5	11.9	11.0	12.6	10.9	33.5	34.8	36.5
	オランダ			*	*				
	ニュー・ジージラント								
	ノールウェー								
	スウェーデン								
	スイス								
	イギリス				1.3	4.6	2.6		1.3
	米 国	*	3.0		5.0	6.0	-1.0	2.0	3.0
計	19.5	11.7	7.4	17.7	27.6	34.2	36.7	41.0	
国 際 機 関 (ネ ッ ト)	AF, D, F.								
	A.F.E.S.D.								
	AS, D, B.						0.1	0.4	0.2
	I.B.R.D.								1.7
	E. E. C.								
	I. D. A.				0.2	1.3	2.7	6.4	8.8
	I. M. F.								16.7
	O.A.P.E.C.								
S.A.A.F.A.									
計				0.2	1.3	2.8	6.8	27.3	
OPEC (二国間)									0.3
合 計	19.5	11.7	7.4	17.9	28.9	37.0	43.5	68.7	

(4) わが国の二国間経済協力

① 年別、援助形態別、経済・技術協力(DACベース)

単価：1,000ドル

援助形態 曆年	政 府 開 発 援 助				その他政府資金及び民間資金の流れ			総 合 計	
	贈 与		計	政 府 貸 付	計	直接投資等	輸 出 信 用		計
	照会資金協力	技 術 協 力							
60		318	318		318	710	468	1,178	1,496
61		282	282		282	1,473	4,821	6,294	6,576
62	2,778	417	3,195		3,195	3,051	4,648	7,699	10,894
63	2,778	447	3,225		3,225	9,134	6,412	15,546	18,771
64	2,778	762	3,480		3,480	12,998	17,792	30,790	34,270
65	2,778	1,080	3,858		3,858	9,029	9,243	18,272	22,130
66	2,778	879	3,657		3,657	3,166	15,749	18,915	22,572
67	2,778	1,330	4,108		4,108	5,232	-2,867	2,345	6,453
68	2,778	2,133	4,911		4,911	12,306	19,761	32,067	36,978
69	7,220	2,170	9,390	5,470	14,860	13,900	21,850	35,750	50,610
70	-	2,420	2,420	14,480	16,900	13,790	44,200	57,990	74,890
71	200	3,380	3,580	11,940	15,520	8,460	-25,640	-17,180	-1,660
72	810	3,660	4,470	10,990	15,460	25,060	-32,840	-7,780	7,680
73	60	5,000	5,060	12,570	17,630	18,700	-6,450	12,250	29,880
74	1,420	5,070	6,490	10,880	17,370	40,550	-8,000	32,550	49,920
75	1,140	5,580	7,720	33,490	41,210	5,230	29,770	35,000	76,210
76		6,280	6,280	34,800	43,080	7,710	-12,850	-5,140	37,940
77	4,200	11,130	15,330	36,500	51,830	27,130	-6,930	20,200	72,030
78	6,130	20,000	26,130	77,620	103,750	126,160	-1,180	124,980	228,730
総 計	41,626	74,278	115,904	248,740	364,644	343,789	77,937	421,726	786,370

② 直接借款（1979年12月末現在）

No	事 項	根 拠 協 定	金 額 (百万円)	対 象	返済期間(年) ()内は据置期間	金 利(%)	貸出機関	備 考	G・E (%)
	円 借 款	1968. 1.12 交換公文	21,600	国鉄整備計画、航路整備計画	15(5)	5.75	輸・市銀	協定総額の1/2 タイド	25.65
				{ 灌漑ダム計画、橋梁建設計画等	18(5)	5.75	基 金	協定総額の1/2 タイド	26.81
					20(5)	4.5			36.52
円 借 款	1972. 4.12 交換公文	64,000	対政府借款（TOT首都圏電話拡張計画）	20(7)	5.0	輸・市銀	12,000百万円 アンタイド	54.77	
			対政府借款（南バンコック火力発電所計画等）	25(7)	3.25	基 金	34,600百万円 (注)	50.75	
			IFCT（タイ産業金融公社）	20(7)	5.25	輸 銀	10,000百万円 タイド	52.94	
			BACC（農業及び農業協同組合銀行）	20(7)	3.75	基 金	8,000百万円 タイド	45.90	
(注) 対政府借款のうち、輸銀分(60億円)、基金分(170億円)の金利が、それぞれ5%・4%・3.25%→2.75%に条件緩和された。									
円 借 款	1974. 8.14 交換公文	23,000	TOT首都圏電話拡張計画	20(7)	4.0	輸 銀	条件緩和分	42.07	
			バン・チャオ・ノン水力発電事業等事業	25(7)	2.75	基 金		上記円借款460億円の条件緩和分であり、本借款供与の際、同額（輸銀60億円、基金170億円）は上記借款から失効させた。	54.62
円 借 款	1975.10. 7 交換公文	16,840	TOT首都圏電話拡張計画	20(7)	4.0	基 金	9,550百万アンタイド	42.07	
			{ サートン橋建設事業、チェンマイ上水道建設	25(7)	2.75	基 金	7,290百万アンタイド	54.62	
第4次円借款	1977. 6.10 交換公文	24,900	地方配電施設拡充等	25(7)	3.25	基 金	アンタイド	30.75	
既借円借款一部失効	1974. 8.14 交換公文	△ 23,000	1972.4.12付E/Nの一部						
円 借 款	1978. 3.29 交換公文	32,500	第5次円借款（小規模灌漑計画等）	25(7)	3.25	基 金	一般アンタイド	50.75	
円 借 款	1979. 3.30 交換公文	10,300	発電船計画						
円 借 款	1979. 4.20 交換公文	39,000	第6次円借款						

③ 延払い信用枠(クレジット・ライン)

対 象	成 立 年 月	金 額(百万ドル)	金 利(年利)※	返 済 期 間(年)	備 考

④ 無償資金協力(1979年9月末現在) 交換公文ベース

イ) 準 陪 償

(カッコ内は億円) 単位: 100万ドル

公 換 公 文 締 結 日	総 額	供 与 期 間	年 間 供 与 額	契 約 認 証 総 額	支 払 済 額	義 務 履 行 率(%)	備 考
1955. 7. 9	(54)						
1962. 1. 31	(96)	1962. 5. 9 ~ 1970. 5. 8 ~	2. 8(10) ※ 7. 2(26)	20. 9 (75. 4)	26. 7 (96)	100	○特別問題の解決に因するタイとの間の協定 ○1969年5月31日支払終了、確認業務が残る。 ○特別協定による協力 ○繊維工場、漁業調査船、貨物船、車輛 ※最終年度

ロ) 一 般 無 償 協 力

単位: 100万円

年 度	締 結 日	案 件 名	金 額
1971	1971. 4. 1	タイ(ノンカイ)〜ラオス(ヴィエンチャン)間マイクロウェーブ通信施設	24
1972	1972. 4. 4	タイ〜ラオス間マイクロウェーブ(追加)	13
	1975. 3. 30	モンクート王工科大学電気通信施設の設計及び建設	165
1974	1974. 6. 28	モンクート王工科大学電気通信学部施設建設	790
1975	1975. 11. 14	口蹄疫ワクチン製造センターの建設及び機材	1,000
1976	1976. 9. 20	口蹄疫ワクチン製造センター建設及び機材	900
1977	1977. 7. 13	スパンブリ稲作試験所	120
	1977. 8. 16	東北タイ技術開発学校施設建設、機材	1,000
1978	1978. 10. 4	カセサート大学施設の建設	1,300
	1978. 11. 17	給食補強計画のための粉ミルク供与	200
	1978. 11. 17	低所得家族用住宅建設のためのセメント供与	300
1979	1979. 7. 23	青少年福祉センター本館建設	1,000
	1979. 7. 23	カセサート大学拡充計画	2,500

ハ) 文 化 無 償 協 力

単位: 100万円

年 度	締 結 日	案 件 名	金 額
1976	1977. 2. 10	シリ・ナカリン・タラ・ウィロート大学体操器具	13
1977	1977. 10. 28	職業短大用日本語リスニングシステム	11
1978	1978. 3. 30	教育者科学博物館展示機材	30
	1978. 12. 14	チュラロンコン大学視聴覚教育等機材	40

ニ) 食 糧 増 産 援 助

備考: (建値) \$=米ドル 両=両建(円及びドル)

年 度	締 結 日	案 件 名	建 値	金 額(100万円)	金 額(1000ドル)
1977	1977. 12. 28	肥料、農業機械、農薬		900	
1978	1978. 12. 1	肥料		1,900	

⑤ 技術協力 (DACベース)

イ) 年別、形態別技術協力

単位: 1,000ドル

年	研修員受入			留学生受入		専門家派遣		調査団派遣		協力隊派遣	研究協力	機材供与	その他	技術協力経費		
	金額	人数		金額	人数	金額	人数		金額					人数	合計	内ICA分
		全体	ISICA分				全体	ISICA分								
1976	1,649.21	458	229	608.78	105	1,685.21	154	99	727.50	144	101			2,461.45	8,282.81	3,889.58
1977	2,365.82	550	293	765.65	127	2,675.14	190	138	2,646.12	246	224			768.57	11,133.87	7,966.61
1978	5,257.45	629	322	1,306.61	152	4,713.25	292	170	5,614.26	268	224			863.01	19,996.95	15,307.46
1979																

ロ) 国際協力事業団技術協力実績 (DACベース, 1975年~1978年)

㊤ 事業形態別経費実績

単位: 1,000円

年(暦年)	項目	合計	研修員受入	専門家派遣	調査団派遣	研究協力	機材供与	協力隊派遣(学生)	その他
1975		1,074,883	226,589	417,823	86,490	25,306	294,993		33,682
1976		1,153,395	226,256	351,187	203,562		286,081		46,307
1977		2,159,114	374,674	553,534	699,359		446,379		65,168
1978		3,221,762	566,177	795,107	721,043	67,280	1,186,066		86,089
1979									

㊦ 分野別研修員受入

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education	Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning			Construction	Others						
1975		202 ^A	9 ^A	6 ^A	44 ^A	57 ^A	14 ^A	23 ^A	7 ^A	6 ^A	28 ^A	8 ^A		669.7 ^{A,B}
1976		229	10	14	41	55	21	32	6	7	22	14	9	725.5
1977		293	7	9	44	92	18	34	10	3	31	22	25	843.0
1978		322	7	7	42	96	17	51	10		32	54	26	791.2
1979														

㊧ 分野別専門家派遣

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975		107 ^A	1 ^A	2 ^A	15 ^A	34 ^A	30 ^A	7 ^A	1 ^A		2 ^A	8 ^A	9 ^A		635.9 ^{A,B}
1976		99		13	23	20	13	3	1		3	15	7	1	415.4
1977		138		4	20	45	27	19	1		12	7		5	675.0
1978		170		4	20	66	6	21	1		15	25	6	6	967.1
1979															

① 分野別調査内容及び期間経過

項目年(暦年)	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Indust		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	45			1	25	11	8							35.5
1976	101		3		53	26	4	6			5	4		80.8
1977	224		4	53	80	3	7	35		7	11	24		214.9
1978	224		44	68	62	26	10				6			331.0
1979														

III 一般事情

① 経済開発計画

名称：経済社会開発5カ年計画

項目	第1次	第2次	第3次	第4次
期間	61.1～66.9	66.10～71.9	71.10～76.9	76.10～81.9
GDP増加率	8.1%	7.5%	目標 7.0% 実績 6.2%	目標 7.0%
農業生産増加率	6.4%	4.4%	5.1%	5.9%
GDP中の農業シェア	34.5%	29.8%	26.8%	26.4%
工業生産増加率	11.2%	10.4%	8.0%	8.6%
GDP中の工業シェア	12.2%	17.5%	17.6%	20.4%
				22.9%

(注) イ 第1次、第2次は実績

ロ 第3次は推定実績

ハ 第4次計画の目標次のとおり。

- (1) 所得格差の是正、生活水準の改善
- (2) 経済成長の維持(6～7%)
- (3) 経済社会開発による安全保障の推進
- (4) 雇用の増大、賃金及び所得の改善
- (5) 経済の安定、国際収支の安定
- (6) ニーズに応じた公共施設の増大
- (7) 人口増加率の減少、人的資源の質的改善
- (8) 環境問題及び公害の防止
- (9) 地方分権政策による農村開発の推進

② 年間気温

タイ・バンコク地方 年間気温表

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最高	33	34	35	36	35	34	33	33	33	33	32	32
最低	19	21	23	24	24	24	24	24	24	24	24	19
平均	27	28	29	31	30	29	29	29	28	28	27	26
降雨日数	1	3	4	6	17	18	19	19	21	17	7	3

(海外生活の手引)

③ 教育制度(1976年文部省)

	学校数	生徒数(万人)	就学率
(イ) 初等教育 前期4年 後期3年	29,763	673.7	78.6%
(ロ) 中等教育 前期3年 後期2年	1,254	125.9	22.7%
(ハ) 高等教育 4年ないし5年 含む短大	107	12.9	5.9%

注：学校数は学部等で各地に分散しているものは各1に数える。

(ニ) 文盲率

1976年 10才以上 14.5%

④ 医療(1975年)

- (イ) 医師・医療従事者数
5,005人
- (ロ) 医師1人当り人口
8,470人

(v) 病院・医療施設数

病院 340 保健所 4,031 助産所 1,156

(vi) 保健・衛生事情

施設、医師、看護婦不足。
農村部の衛生事情悪し。

⑤ 日本人学校

地域	小学	中学	合計	教師数	創立年月	備考
バンコック	641	116	757	34	昭和31.1月	幼 180

⑤ 労働事情 (1976年)

(i) 労働人口 20,621千人

(ii) 失業人口 1,216千人 失業率 5.90%

(iii) 労働条件等

週平均労働時間 (首都圏) 46.40時間

⑥ 祝祭日 (1978年)

- 1月1日 元旦
- 2月22日 *万仏節 (マーカ・ブーチャー)
- 4月6日 親王朝創立記念日 (チャックリー・デー)
- 4月13日 灌仏節 (ソクラーン)
- 5月5日 国王戴冠記念日
- 5月11日 *春耕節 (ブート・モンコン)
- 5月21日 *仏誕節 (ウィザーカ・ブーチャン)
- 7月19日 *三宝節 (アーサーラハ・ブーチャン)
- 7月20日 *安居節 (カオ・パンサー)
- 8月12日 王妃誕生日
- 10月23日 チュラロンコン大王祭
- 12月5日 国王誕生日

12月10日 憲法記念日

12月31日 大晦日

(注) *印は陰暦により定められ、毎年変更がある。

⑦ 条約関係

- (1) 航空協定 1953.7.14
- (2) 文化協定 1955.9.6
- (3) 貿易取極 1958.1.1
- (4) 租税条約 1963.7.24

友好通商航海条約については1970年2月27日にタイ朝よりわが国を含めた17カ国に対し、内容が旧式になったとして一律に廃棄通告がなされた。日タイ両国間では1971年2月24日付交換公文によって新条約締結まで、法令の範囲内で出来るだけ好意的待遇を相互に与えることが合意されている。

⑧ 電気事情

地域	周波数	相数	電圧	配線数	電気時計の使用
Bangkok	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	可能
Chiangmai チェンマイ	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Cholburi チョルブuri	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Khon Kaen コン・ケーン	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Nakhornratchasima ナコンラジマ	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Phuket プケット	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Pitsanuloke	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Songkla ソンクラ	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Thonburi トンブuri	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Trang トラング	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Ubonratchhani ウボンラチャタニ	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	
Udonthani ウドン・ターニ	a.c 50	1.3	220/380	2.3.4	

○安全規格 CTN S S
○ラジオ 中波 短波
○TV 525lines. カラー PAL. system
○1次配電電圧 11KV、22KV、33KV
○低圧配電 3相3線式

ウ イ エ ト ナ ム

ヴェトナム

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	346,896	(18) 655	42,677		17,253		2,833		409,659	(18) 655
2. 専門家・調査団	738,342	250	7,238	8			674	1	746,254	292
(1) 専門家	557,068	127					33		557,101	160
(2) 調査団	181,274	123	7,238	8			641	1	189,153	132
3. 協力隊										
4. 機材供与	958,791						4,954		963,745	
5. その他	2,577		894				124		3,595	
合 計	2,046,606		50,809		17,253		8,585		2,123,253	

(注) 旧南ヴェトナム共和国は1976年7月、ヴェトナム社会主義共和国となった。本表の実績のうち、昭和51年7月実施の「とうもろこし生産開発協力事業」「とうもろこし開発試験事業(開発投融資・貸出実行はなし)」および53年度実績以外の実績はすべて旧南ヴェトナムに対する実績である。

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																	人数累計 (人)	経費累計 (千円)
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化学工業	公益事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子力	経営技術	教 育	行 政	そ の 他			
研修員受入	(4) 113	(1) 27	(1) 23	3	6	18	4	15	21	26	188	(5) 5	(2) 13	40	(1) 119	(4) 34	(18) 655	409,659	
調査団派遣	34		3					40	11	5	5				1	33	132	189,153	
専門家派遣	30	4				5				15	85			19	1	1	160	557,101	
協力隊派遣																			
機材供与																		963,745	
その他																		3,595	
合 計																		2,123,253	

2. 事業別実績
研修員受入事業

ヴ
イ
エ
ト
ナ
ム

年度	分野 計(人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
29年度	3	3																10,542
30 "	2										1						1	
31 "	26	10														16		
32 "	37	21	4									5			5		2	
33 "	28(3)	8	13				4						2(2)				1(1)	
34 "	17	3					1			2		3			4		4	
35 "	35	3	2				2				2	13			13			
36 "	8(1)	2	1	1			2						1(1)			1		
37 "	23	8	1		2		1			1	3					6	1	
38 "	10(1)	1								1			1(1)			5	2	
39 "	11	1	2	1								4				3		2,698
40 "	12(1)	3		1(1)			1	1								6		3,427
41 "	27	8									2	10		1		3	3	8,002
42 "	22	3				1				3	3	9				3		5,595
43 "	16			1								10				4	1	6,841
44 "	54(1)	9		1		1	1				1	23			2	14(1)	2	16,954
45 "	51(4)	8(1)	1(1)	5		1		1		2	3	7		3(2)	6	12	2	24,391
46 "	56(1)	5		3		2	2	2	6	2	1	13		2	5	11	2(1)	28,614
47 "	51	4		2	1		1		2	2	1	24		4	1	6	3	44,712
48 "	87(4)	6(2)		4			1		3	4	6	37	1(1)	2	2	16	5(1)	82,049
49 "	77(2)	7(1)	3	4		1	2		4	4	3	30		1	2	11	5(1)	85,018
50 "	2															2		28,053
51 "																		42,677
52 "																		17,253
53 "																		2,833
29～合計	655(18)	113(4)	27(1)	23(1)	3	6	18	4	15	21	26	188	5(5)	13(2)	40	119(1)	34(4)	409,659

専門家派遣事業

年度	分野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鋁 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
31年度		4	2					2											51,910
32 "		2	1													1			
33 "		4	1					2								1			
34 "		5	2	2												1			
35 "		4	2	1												1			
36 "		2	1													1			
37 "		4	1					1								2			
38 "																			
39 "		2	1													1			10,242
40 "		2											1			1			9,798
41 "		1														1			11,795
42 "		2		1												1			13,362
43 "		2														2			9,194
44 "		6	1									5							6,200
45 "		2														1		1	12,879
46 "		10	1									8				1			16,916
47 "		4	1									2				1			11,385
48 "																			17,574
49 "		2	2																33,001
50 "																			12,488
31~合計		58	16	4				5				15	1			16		1	216,744

ウ
イ
エ
ト
ナ
ム

機材供与事業

ヴェ
イ
エ
ト
ナ
ム

№	機 材 名	機 材 供 与 先	年度	機材供与経費(千円)
1	教育テレビ用機材	教 育 省	45	49,932
2	養蚕関係機材	農 業 省	47	4,285
3	視聴覚機材	保 健 省	47	126
4	語学研修機材	サイゴン大学	50	753(㊟補償金)

㊟ 補償金：南ヴェトナム共和国政権崩壊により購送業務が不能となった当該機材の購入契約解除等の補償金。

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団		専 門 家		機材供与経費 (千円)	主要機材		
				人 数		経 費					
				継続	新規	千 円	千 円			継続	新規
チョウライ病院 協定等の種類：交換公文 署名年月日：42.6.10 協力期間：41～50.3 予備調査：42.5.15～ 42.5.24 実施調査：43.12.9 ～43.12.23 計画打合せ：48.3.25 ～48.3.31 国内協力機関： 日本大学医学部	本件プロジェクトに対する協力は、昭和42年6月「日本とヴェトナム両国政府間の医療協力に関する交換公文」にもとづき実施され、これまでチョウライ病院脳外科病棟(不動産供与)の建築ならびに同部門における診療活動および医学研究に必要な機材、医薬品類の供与を実施するとともに、脳外科医、X線技師等の医療関係専門家を派遣し、多大な成果をあげ、昭和49年度をもって終了した。 なお、プロジェクトはわが国最大の医療協力プロジェクトの1つである。	41					3	...	26,945	X線装置、脳波計、心電計	
		42	予備調査		3	...	2	4	...	29,069	脳神経外科及び外科器材
		43	実施調査		4	...	6	5	...	11,300	病棟用機材
		44					2	25	...	67,520	X線テレビ
		45					4	① 7	...	34,757	医薬品
		46					2	② 3	...	4,532	医薬品
								6	19,426	③ 1,061 29,389	
		47	計画打合せ		(3)	(942)	3	6	11,200	④ 86 22,837	吸引器、医薬品
		48					3		4,418	14,281	医薬品
		49									手術用顕微鏡
医療協力実施調査 調査期間：41.6.4～ 41.6.24 (21)	(カンボディア、ヴェトナム) アジア一般を参照のこと。	41	実施調査(第1回)		(2)	}					
		41	実施調査		(2)						(1,108)

保健医療協力事業

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
医療協力視察 調査期間：44.3.13～ 44.3.20 (8)	(インドネシア、ヴィエトナム) アジア一般を参照のこと。	43	視 察		(4)	(665)					
難民住宅診療所 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間： 国内協力期間：	ヴィエトナム国における難民政策は、同国の重大な社会問題である。わが国は昭和46年度から難民政策援助に加わり、難民収容住宅を建造するとともに、回診用X線装置、救急車等の医療器材を供与した。 本プロジェクトは機材供与事業のみであり、専門家派遣および研修員受入れの事業協力をしない資金協力的プロジェクトの1つである。	46							17,618	回診用X線装置 救急車	
		47							3,244	医薬品	
		48								10,479	医薬品
ヴィダン病院 協定等の種類：なし 署名年月日： 協力期間： 国内協力機関：	本件プロジェクトは機材供与事業のみを実施する単発医療協力事業で、昭和47年度にヴィダン病院に対し病院用ベッドエレベーター等を供与した。	47							10,879	病院用ベッド エレベーター	
医療器材管理技術巡回 指導 調査期間：48.1.23～ 48.2.11	(フィリピン、ヴィエトナム) アジア一般を参照のこと。	47	巡 回 指 導		(4)	(1,827)					
新チャライ病院 協定等の種類：R/D	本件プロジェクトは、当初、外務省ベースにて不動産供与(無償協力)を実施し、以後、JICAベースで専門派遣事業を主体とした協力を実施した。	48	基礎調査		6	3,184					
		49	実施調査		5	1,869	1	14	11,666	⑧ 360	
		50					98	1		3,495	

ヴィエトナム

保健医療協力事業

グ
イ
エ
ト
ナ
ム

プロジェクト名	概 要	年 度	調査の種類	調 査 団			専 門 家			機材供与経費 (千円)	主要機材
				人 数		経 費	人 数		経 費		
				継続	新規	千 円	継続	新規	千 円		
署名年月日：50.3.1 協力期間：50.3～53.3 基礎調査：49.3.14～ 49.3.28 実施調査：50.2.23～ 50.3.4 国内協力機関： 日本大学医学部	昭和50年3月には、医療協力実施調査団を派遣して具体的協力内容、分野、期間等をR/Dに取決めプロジェクト方式により、協力を着手することになった。協力内容は、新チョーライ病院業務の管理運営のための集中管理方式の導入ならびに医療技術のレベルアップのための協力である。しかしながら、その後の現地事情の激変により派遣専門家は総引き上げをすにいたり、本件プロジェクトは事実上中断した。										
医療機材修理班 調査期間：48.1.2.2 ～48.12.22	(インドネシア、フィリピン、ヴェトナム) アジア一般を参照のこと。	48	機材修理		(5)	(1,887)					
臨床検査プロジェクト 巡回指導 調査期間：49.11.12 ～49.11.30	(インドネシア、フィリピン、ヴェトナム) アジア一般を参照のこと。	49	機材修理		(4)	(888)					
医療機材修理班 調査期間：49.9.25～ 49.10.18	(ラオス、フィリピン、ヴェトナム) アジア一般を参照のこと。	49	機材修理		(4)	(1,894)					
チョーライ病院 (特別機材供与)	単独機材供与	53							4,954	試薬品	

農林業協力事業

プロジェクト名	概要	年度	調査の種類	調査団			専門家			機材供与経費 (千円)	経費総額 (千円)
				人数		経費	人数		経費		
				継続	新規	千円	継続	新規	千円		
カントー大学農学部協 力定等の種類：協定 署名年月日：45.3.7 協力期間：45.3～48.3 協定等の種類：協定 (延長) 署名年月日： 協力期間：48.3～51.3 実施調査：44.11.2～ 44.11.24 巡回指導：46.3.20～ 46.4.9 巡回指導：48.3.7～ 48.3.21 巡回指導：48.10.2～ 48.10.15 巡回指導： 49.9.10～49.9.30 49.11.26～49.12.15	カントー大学農学部はメコン・デルタの中心カントー市に基幹産業である農業の発展に貢献すべく設立されたが、歴史が浅く、教官、施設、教育資機材も不十分であることから、旧南ヴィエトナム政府から同大学農学部充実強化のための協力要請が行われた。昭和44年、次の協力内容をとりまとめた合意議事録を交換し、翌年3月に協定が締結された。 ① 農学および畜産学の各分野の教授およびリサーチ・フェローの派遣、並びに必要な日本人教官の派遣による研究・教育面の指導援助 ② 将来、同大学の教官となるべきヴィエトナム人教官要員のわが国での研修 ③ 学部運営に必要な研究・教育資機材の供与 なお、ヴィエトナム情勢の急変により、昭和50年3月から5月にかけて派遣専門家を帰国させ、本協力をすべて終了した。	44	実施調査		5	3,107				2,629	5,736
		45	巡回指査		4	Ⓐ 535 1,948		2	7,518	45,232	55,233
		46				Ⓑ 372	2	4	16,354	48,143	64,869
		47	巡回指導		3	Ⓒ 1,094 1,195	6	2	18,446		20,735
		48	巡回指導		5	Ⓓ 401 2,313	4	4	21,159	Ⓔ 318 35,616	59,807
		49	巡回指導		6	Ⓔ 173 2,848	5	2	36,904	Ⓕ 609 29,103	69,637
		50				Ⓖ 384	4		7,746		8,130

グ
イ
エ
ト
ナ
ム

開発調査事業

ヴェ
イ
エ
ト
ナム

№	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	東南アジア域内電気通信網整備計画調査	(インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、タイ、台湾、ヴェトナム) アジア一般を参照のこと。	42	投	42.10.7~42.11.11	(6)	(693)
2	ファンラン地区農業開発計画調査	サイゴンの北方約270kmに在るニントワン省ファンラン平野約24,300haをかんがいし、水利の他に砂糖きびの導入を図って国内砂糖供給に供するもの。	46	投	46.9.9~46.10.28	16+(1)	40,208
			46	〃	47.3.16~47.3.25	4	
3	水道施設整備計画調査	①3都市水道施設建設計画調査 サイゴン、ダナン、ロンセンにおける水道施設完備のための現場調査と工事費の概算見積。 ②サイゴン首都圏水道施設整備計画調査 46年度：サイゴン市北部のホクモン地区の地下水賦存量の電気探査実施。 47年度：地下水揚水試験およびサイゴン河流量測定。 1日20万トンの地下水揚水可能との結論を得た。	45	実 施	46.1.7~46.1.25	7	5,774
			46	報 告	46.7.25~46.8.3	3	1,490
			46	実 施	47.3.23~47.3.31	7	4,684
			47	〃	47.4.1~47.5.6	(7)	
			47	〃	47.4.30~47.5.6	1	
			47	〃	47.1.5~48.3.31	12	6,754
			48	報 告	48.9.21~48.9.29	1	
48	〃	49.2.12~49.2.21	1				
4	衛星通信地球局建設計画調査	太平洋上の静止衛星を利用した地球局を建設する計画のためのフィジビリティ調査。	47	実 施	48.1.10~48.1.30	5	5,546
			48	〃			308
5	鉄道復旧計画調査	戦争で被害を受けた鉄道の復旧計画でサイゴンとユエの直通運転を目的とし、その第1段階として①サイゴン~ブキャット間(約700km)②ブキャット~ダナン間(約280km)③ダナン~ユエ間(約100km)にともかく列車の運行を可能にし、次いで第2段階としてサイゴン~ナトラン間(約400kmを70km/hで運行出来るように近代化しようとする計画である。48年度はこの鉄道復旧計画の立案並びに、復旧に要する経費等について現地調査を行った。	48	実 施	48.10.4~48.11.7	8	8,359
			49	報 告	49.9.22~49.9.30	3	1,960
6	カントー大学農学部校舎建設に係わる調査	ヴェトナム政府の要請に基づき、カントー大学農学部校舎建設のための基本設計に係る大綱をもとめるため、地層、電力事情、ガス供給、排水処理、上下水の水質等を分析及びサイゴン市、カントー市において種々建物及び建設現場の見学、材料会社、工場の調査、現地建設会社等の事情聴取等を行い、ヴェトナム側のマスタープランを実施するための提言及び概算見積額の算出等について調査した。	49	特	50.1.20~50.2.9	3	8,681
			50	〃			1,259

海外開発計画調査事業

順	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	東南アジア鉱工業プロジェクト選定確認調査	(インドネシア、マレーシア、フィリピン、ヴィエトナム、パプア・ニューギニア)アジア一般を参照のこと	49	海	49.10.30～49.11.15	(2)	(585)
2	カントー火力発電開発計画調査	メコンデルタ地帯の電灯電力拡張のためカントー火力発電を開発するための調査。	49	海	45.11.25～45.12.24	8	20,207
3	技術協力調査	統一ヴィエトナム成立後、協力は皆無であったが、民間ベースによるプロジェクト協力のアプローチがあり、政府ベースの協力要請に発展する可能性がある。これに応えるためヴィエトナムの事情聴取とともにJICAの技術協力について説明した。	53	海	53.10.22～53.11.5	1	641

ヴ
ィ
エ
ト
ナ
ム

開発協力事業
開発基礎調査

順	プロジェクト名	概 要	年 度	調査の 種 類	調 査 期 間	調 査 団 派遣人員	経費実績 (千円)
1	とうもろこし生産開発協力	本調査は、全国農協連のとうもろこし生産開発プロジェクトに対する支援のための調査をはじめ、ヴィエトナム国政府の要請のあった南部地域の農業開発協力の基礎的調査を行い、対ヴィエトナム農業開発協力の方針に役立てるものである。	51	開発基礎 一次調査	51. 7.30～51. 8.22	8	7,238

〔開発投融資〕

事業名	融資承諾年月日	融資承諾額(百万円)	事業地	対象事業
とうもろこし開発 試験事業	52. 3.28	1,125	ハバク省	機械化栽培

(注) 貸出実行はなし

ヴェトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam

首都：ハノイ (ヴェトナム社会主義共和国は、1975年4月30日、旧南ヴェトナム共和国が崩壊し1976年7月5日南ヴェトナム臨時革命政府とヴェトナム民主共和国が統一され、ヴェトナム社会主義共和国となった。)

面積	独立年月日	政体	宗教	言語	民族または人種構成	通貨	開発段階における国の分類				その他		
332,800km ²	1976. 7. 3	社会主義共和制	仏教・カソリック	ベトナム語	ヴェトナム人(85.9%)、中国人(2.6%)、カンボジア人(1.2%)、少数民族(10.3%、タイ、マンモオ、ロロ、チャムモイ族等)	Dong (UN\$) = 100 Sums	PDC	LLDC	MSAC	UNCTAD	世銀	OPEC	OAPEC
							U			A			

ヴェトナム

I 国別主要指標

(1) 社会指標

① 年央推計人口

単位：1000人

年	1950	1955	1960	1965	1970	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
		12,000	14,100	16,124	39,190	41,500	42,700	43,940	47,960	49,160	50,647	52,179

② 人口増加率

単位：(%)

項目	年	1960~1975	1970~1977
人口増加率		2.7	3.1

人口密度

※推計人口

人数/km ²	143.8
調査年	1977

③ 出生死亡率 人口1,000人あたり出生・死亡数

項目	年	1970	1974	1975	1976	1977
出生率	※1	57.5		41.4		
死亡率	※2	16.1		17.9		
乳児死亡率						

※1 1965-70年
※2 1970-75年

④ 主要都市人口

都市	調査年	人口(1000人)
ハノイ	1960	415
ホーチミン(サイゴン)	1973	1,825

(2) 経済指標

① 国民総生産・国際収支

項目	単位	年	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
GNP	総額	百万ドル			5,740	6,510	6,010	7,750	8,550	8,870
	国民1人当り	ドル			150	150	150	160	170	170
公定歩合	%									
国際収支	総合収支	百万ドル								
	経常収支	百万ドル								
	貿易収支	百万ドル								
	基礎収支	百万ドル								
長期資本収支	百万ドル									
歳入			131,452							
歳出			235,000							
テッド・サービス・レシオ	%		0.9	2.2	2.8	2.8				
国際通貨準備	合計	百万ドル							101	
	金	百万ドル								
	S D R	百万ドル								
IMFポジション	百万ドル									
外国為替保有高	百万ドル									
公的債務残高	百万ドル			95.8	172.8	291.5				
公的債務支払高	百万ドル			64.2	65.5	144.2		240	122	

② 国内総生産

項目	単位	年	1960	1970	1973	1974	1975	1976	1977
G D P	合計	百万ドル							
	1人当り	ドル							
G D P 指数	合計	%	73	100	109				
	1人当り	%	95	100					
実質成長率	単位		1960~1970	1970~1977					
	合計	%							
	1人当り	%							

③ 国内総生産構成比(通貨単位：10億ピアストル) 単位：(%)

年	国内総生産(通貨単位)	政府の最終消費支出	民間最終消費支出	在庫増	総固定資本形成	輸出	輸入
1960	82.8	17	77	5	8	7	14
1965	101.4	21	84	9	8	8	21
1970	778.5	23	78	3	8	4	17
1971	956.0	24	72	2	9	8	15
1972	1,093.7	25	80	3	9	13	30
年	国内総生産(通貨単位)	農 業	鉱工業	建設業	卸小売業	運輸業等	その他
1960	82.8	30	11	10	1	4	26
1965	101.4	28	11	10	1	4	29
1970	778.5	31	6	6	1	3	24
1971	956.0	31	7	7	1	3	25
1972	1,093.7	29	7	6	1	4	26

ヴェトナム

④ 国民所得

項目	年	単位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
国民所得総額		100万ドル	3,266	2,479					
1人あたり国民所得		ドル	174	128					

出所：国連

⑤ 年平均インフレ率

1970~77年	-
----------	---

出所：世銀

⑥ 種類別公的対外債務残高の内訳

年現在	単位	債務残高(ディスバースメント)	債務残高(コミットメント・ベース)					公的対外債務返済額の総輸出額に占める比率					
			合計	二国間	多数国間	サプライヤー	銀行	その他	1973年	1974年	1975年	1976年	
1975年12月末	百万ドル												
1976年12月末		240											
1977年12月末													

出所：世銀

⑦ 卸売物価指数

1970=100

単位：(%)

項目	年	1965	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
総合		36	119	159	241	410			
農産物									
建築材料									
織物									

旧ヴェトナム民主共和国および南ヴェトナム共和国

出所：国連

⑧ 消費者物価指数

1970年=100

単位：(%)

項目	年	1965	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
総合		20	120	151	221	332			
食料		16	114	147	216	321			

*サイゴン、勤労者階級

出所：国連

③ 貿易指標

① 総合

項目	年	単位	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
輸出総額		百万ドル	4	13	59					
輸出依存度		%								
対日輸出額		百万ドル		13.84	29.11	30.69	14.51	*48.88	**72.00	51.00
総入総額		百万ドル	255	707	618					
輸入依存度		%								
対日輸入額		百万ドル		104.67	86.45	104.49	38.58	*166.24	**175.00	217.00

出所：国連

(輸出・入依存度は国民総生産に対する輸出額(FOB)・輸入額(CIF)のそれぞれの割合)

*南ヴェトナムのみ

② 主要相手国別輸出入構成

1977年

単位：(%)

輸出入	国名						
	日本	香港	シンガポール	インドネシア	ルーマニア	フランス	
輸出	41	20	16	4	3	3	
輸入	44	9	9	8	8		

出所：国連

③ 主要輸出品目の構成比

1976年

単位：(%)

品目名						
構成比						

(4) 農業・林業・水産

① 農業生産指数 (1969~1971年=100)

単位：(%)

項目	年	1970	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
総合		102	105	107	108	112	112	116	
食料		102	105	107	108	112	112	116	

出所：FAO 総合は食料品目の他、繊維、茶、コーヒー、煙草、工業用油料種子及びゴムを含む。

③ 農林業用地・生産

項目	年	単位	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	備考
総面積		1000ha			32,956			(含む内水面)
耕地		"	5,500	5,320	5,350			(二毛作地は1個のみ計上)
樹園地		"		250	250			(伐採地)
牧場・牧草地		"	4,870	4,870	4,870			(5年以上使用のもの)
森林		"	11,620	11,420	11,300			(自然林栽培地)
その他		"	11,266	10,976	10,766			(建築物敷地、道路公園、内水面)
農家人口		1000人	29,889	32,429	32,896			
(農業生産)								
米		1000t	11,025	12,000	10,800	10,885		
小麦		"						
とうもろこし		"	515	320	320	408		
馬鈴薯		"						
大豆		"	30	30				
コーヒー		"	7.5	7.5				
茶		"						
胡椒		"						
棉花		"	3	3	2	2		

*推計値

*旧ヴィエトナム民主共和国及び南ヴィエトナム共和国

④ 肥料消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
窒素肥料		1000t	175.3	135.5	121.2	204.0		
リン酸肥料		"	99.1	74.7	128.5	100.2		
カリ肥料		"	38.9	40.4	34.1	35.8		

調査年は翌年6月30日に終る肥料年度

出所：国連

*1 旧ヴィエトナム民主共和国及びヴィエトナム共和国

*2 分別年次の第一年度を示す暦年

*3 分別年次の第一期の属する暦年

*4 粉砕燐鉱石を含む

② 1人あたり食糧生産指数

1969~71=100 (%)

1975~77年平均	100
------------	-----

出所：世銀

項目	年	単位	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	備考
* 粟 糠 草		1000	11.5	12.0				
* 天然ゴム		"	22.0	20.0	32.5	36.0		
馬		1000頭						
* 牛		"	1,800	1,800				
* 豚		"	11,200	11,200	11,500			
羊		"						
羊毛		1000kg						
皮革		"						
牛乳		"						
* 鶏卵		"	104.0	108.0				
バナナ		"			480	510		
ジャコト		"			21	31		
コブラ		100kg			250			
原木		1000m ³			18.8			

出所：国連 FAO

⑤ 立木伐採

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
総計		1000m ³	17,726	18,426	18,426	18,426	18,426	18,832
工業用材		"	2,076	2,126	2,126	2,126	2,126	2,532

出所：FAO

⑥ 漁獲

項目	年	単位	1971	1973	1974	1975	1976	1977
漁獲量		1000t	887.5	1,013.5	1,013.5	1,013.5		

出所：FAO

グ
イ
エ
ト
ナ
ム

⑤ 鉱・工業、エネルギー

① 鉱・工業生産指数 1970 = 100 (単位:%)

項目	年	1960	1965	1971	1973	1974	1975	1976	1977
総合(建設を除く)			78	105	86				
※2 鉱業			78	102	82				
製造業			68	109	153	148			
電気・ガス・水道									
建設									

※1 南ヴェトナムのみ ※2 家具・什器、印刷・出版、石油・石炭製品及び基礎金属業を除く。出所：国連

③ 鉱業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	備考
※1,2 石炭		1000 t	2,990	4,000	4,250	5,400	6,000	
原油		"						
天然ガス		100万m ³						
マンガン		1000 t						
鉄		"						
銅		"						
亜鉛		"						
錫		"						
ニッケル		"						
ボーキサイト		1000 t						
クローム		"						
金		kg						
銀		t						
※3 糖		1000 t	500	※1 1,200	※1 1,400	1,500		
タングステン		t						
鉛		1000 t						
天然ウラン		トン						

※1 資料：合衆国鉱山局
 ※2 売上高
 ※3 旧ヴェトナム民主共和国のみ
 ※4 資料：国際通商機関および合成品製造業者協会(ロンドン)

出所：国連

⑤ 原材料消費

品目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977	備考
鶏		1000 t	399	205	280	206			
錫		t							
ゴム		1000 t							
合成ゴム		"							
棉花		"	21.7	19.5	15.2	15.2			
羊毛		100 t							

出所：国連

② 主要資源埋蔵量

品目	年	単位	埋蔵量			備考
			1975	1976	1977	
石炭		100万t				
経済賦存埋蔵量		"				
付加的資源		"				
原油		100万t				
天然ガス		10億m ³				
天然ウラン		1000 t				

④ 工業生産

品目	年	単位	1973	1974	1975	1976	1977	備考
煙草		100万本	9,501					
生糸		1000 t						
毛織物		100 m ²						
※1 綿糸(純)		1000 mt	10.4					
※1 綿織物(純,交織)		100万m	75					
塩		1000 t			350	350		
ガソリン		1000 t						
重油		"						
灯油		"						
錫		トン						
亜鉛		1000 t						
アルミニウム		"						
銅		"						
鉄・合鉄		"						
粗鋼		"						
※2,3 セメント		"	764	699	685	722		
※1,4 自動車		1000台						
ラジオ		"	87					

※1 南ヴェトナムのみ
 ※2 資料：合衆国鉱山局
 ※3 旧ヴェトナム民主共和国及び南ヴェトナム
 ※4 粗立

出所：国連

⑥ エネルギー・生産・消費

単位：石炭換算 100万t

項目	年	1960	1972	1973	1974	1975	1976	1977	備考
生産			2.05	3.04	4.05	4.30	5.07		
消費			10.83	11.51	8.35	8.41	5.78		
1人あたりキログラム			260			186	124		

⑦ 発 電

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
発 電 量		KWh 100万	1,270	1,700	1,420	1,320		
(内 水 力)		"	15	20	20	20		
1人あたり発電量		KWh						265
発 電 能 力		KW 1000			870	870		
(内 水 力)		"			164	164		

*南ヴェトナムのみ

出所：国連

(6) 運 輸

① 道 路

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
道 路 延 長		Km						
舗装道路延長		Km						
舗 装 率		%						

出所：IRF

③ 鉄 道 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
車 両 数		台						
機 関 車		"		109				
客 車		"		159				
貨 車		"		1,164				
輸 送 量		100万						
旅 客		人・Km (100万)	68	170				
貨 物		トン・Km (100万)	53	1				

出所：国連

② 自動車保有台数^{*1}

種別	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
乗 用 車 ^{*2}		1000台	72	66	70	70		
1台あたり人口		台/人						
商 用 車		1000台	90	98	100	100		

*1 南ヴェトナムのみ

*2 警察その他政府の保安機関が使用する事を含む

出所：国連

④ 海 上 輸 送^{*1}

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
積 荷		1000t	84	198				
揚 荷		"	6,818	4,875				
入 港 船 舶		"			*1 4,993			

*南ヴェトナムのみ *1 底荷だけの船舶を含む

出所：国連

⑤ 航 空 輸 送

項目	年	単 位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
旅 客		人・Km (100万)	641	590	577	120		
貨 物		トン・Km (100万)	4.6	3.5	3.0	0.9		
郵 使		"	0.6	0.6	0.5	0.1		

出所：国連

グ
イ
エ
ト
ナ
ム

(7) その他の社会指標

① 1人あたりカロリー、蛋白質摂取量

項目	1974		1975		1976		1977	
	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合	摂取量	動物性の割合
カロリー		%		%		%		%
蛋白質	g	%	g	%	g	%	g	%

② 在学率・文盲率(15歳以上人口100に対する文盲人口の割合) 単位:(%)

項目	1970			1973			1975			1976		
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均
在学率												
文盲率	*35.5(総数)											
識字率									87			

*北ヴェトナムのみ、12才以上、1960年

出所：国連

⑤ 新聞発行・新聞用紙消費

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
人口1000人あたり新聞発行数		部		*1 21	*2 8			4
用紙消費量		1000t	25.2	24.1	24.1			
*3(総計)								
*3 1人あたり消費量		kg	0.6	0.6	0.6			

*1 南ヴェトナムのみ

*2 北ヴェトナムのみ

*3 旧ヴェトナム民主共和国及び南ヴェトナム共和国

出所：国連

⑦ 水道、電気、住宅

項目	年	単位	1970				備考
水道普及率		%					
電灯普及率		%					
1部屋当り平均人員		人					

出所：国連

③ 出生時平均余命、出生率、死亡率

調査年	単位	男	女	平均
出生時平均寿命1977年	才			62
人口1,000人当りの普通出生率	%	1960 42		
	%	1977 37		
人口1,000人当りの普通死亡率	%	1960 23		
	%	1970 9		

出所：国連

④ 病院施設*

項目	年	単位	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976
病院数					1,579				
病床数	ベッド				34,750				
1ベッドあたり人口	人				550				
医師1人あたり人口	人				10,145				5,168

*南ヴェトナムのみ

出所：国連

⑥ 放送受信機・電話普及率

項目	年	単位	1970	1973	1974	1975	1976	1977
ラジオ	台	1000		1,550	1,550			
人口1000人あたりラジオ保有台数	台		-	80	78			
テレビ	台	1000	450	500	500			
人口1000人あたりテレビ保有台数	台		25	26				
電話普及台数(人口100人あたり)	台		0.2	0.3				

*南ヴェトナムのみ

出所：国連

II 経済技術協力

(1) 開発途上国の援助受取高と債務

① 開発途上国援助受取高

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
総受取高 Net	676.10	555.1	186.2	305.2	457.3
政府開発援助受取高 Net	673.05	550.3	185.6	247.6	528.3
(内) 二国間援助受取高 Net	668.67	279.9	160.8	200.0	208.5
技術協力受取実績 Net	42.73	47.32	0.00		

② 政府開発援助の条件(コミットメント)

単位：100万ドル

事 項	1974	1975	1976	1977	1978
O D A 計				262.61	199.1
贈 与				233.71	133.8
借 款				28.90	65.3
借款のグラントエレメント(G・E)※				53.10	63.5
ODAのグラントエレメント(G・E)※				95.84	88.0

③ 開発途上国の債務

単位：100万ドル

事 項	1975年末現在	1976年末現在	1977年末現在	1978年現在
1960～1977年贈与総受取高(累計)	5,497	6,367	6,808	
直接投資残高				
債 務(支払ベース)				
総 計		281	535	
DAC諸国政府開発援助に対する債務		185	204	
債務返済高				
総 計		47	20	
DAC諸国政府開発援助に対する債務		1		
債務返済率				

ヴ
イ
エ
ト
ナ
ム

② DAC 諸国の経済協力

① 経済協力総額

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 援 助 (ネ ッ ト)	オーストラリア	2.7	3.8	4.8	6.6	12.4	6.5	1.5		
	オーストリア					*	0.2	0.1		
	ベルギー	0.1	*	-2.2	2.9	2.6	3.2	2.7		
	カナダ	2.2	2.2	2.2	2.2	1.8	2.5	0.5		
	デンマーク	0.2	*	*	1.0	5.6	5.3	6.4		
	フィンランド				0.5	0.3	2.6	1.5		
	フランス	8.8	13.7	5.7	-0.8	2.8	9.3	3.7		
	西ドイツ	6.1	8.7	10.0	2.4	12.0	10.2	0.8		
	イタリア	*	*		*	*	*	*		
	日本	-0.1	10.5	11.9	18.9	54.1	18.5	27.0		
	オランダ	0.4	1.8	0.5	0.2	0.5	9.4	10.0		
	ニュー・ジーランド			0.7	1.0	1.1	1.0	0.3		
	ノールウェー	*	*	1.5	4.4	8.1	13.1	6.9		
	スウェーデン		4.7	3.3	22.7	16.3	50.1	87.1		
	スイス	0.1	*	0.2	*	0.2	0.6	1.0		
	イギリス	0.7	1.1	-1.1	0.1	0.4	0.3	*		
	米 国	418.0	428.0	540.0	405.0	587.0	152.0	2.0		
計		439.2	474.5	577.5	465.1	765.2	284.8	161.5		
国 際 機 関 (ネ ッ ト)	AF. D. B.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.			2.2	0.2	0.6	2.6	-0.1		
	CAR. D. B.									
	G. E. C.						10.3	5.7		
	E. I. B.									
	I. B. R. D.									
	I. D. A.									
	I. D. B.									
	I. P. C.									
	O.A.P.E.C.									
S.A.A.F.A.										
U. N.	2.3	2.9	1.7	2.2	3.9	17.7	13.0			
計		2.3	2.9	3.9	2.4	4.5	30.6	18.6		
OPEC (二国間)							40.0	6.1		
合 計		441.5	477.4	581.4	467.5	709.7	355.4	186.0		

② 政府開発援助

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
二 国 間 援 助 (ネ ッ ト)	オーストラリア	2.7	3.8	4.8	6.6	12.4	6.5	1.5	3.9	
	オーストリア					*	0.2	0.1	*	
	ベルギー	0.1	*	0.1	2.9	2.6	3.2	2.7	1.4	
	カナダ	2.2	2.2	2.2	2.2	1.8	2.5	0.3		
	デンマーク	0.2	*	*	1.0	5.6	5.3	16.4	12.0	
	フィンランド				0.5	0.5	2.6	1.5	1.4	
	フランス	2.9	3.5	1.8	6.1	8.3	9.8	2.4	25.3	
	西ドイツ	7.2	8.4	6.3	6.6	3.0	6.3	1.1	1.6	
	イタリア	*	*		*	*	*	*	0.2	
	日本	-0.2	8.6	11.5	18.0	54.6	17.3	28.4	12.5	
	オランダ	0.4	1.8	0.5	0.2	0.5	9.4	10.0	22.3	
	ニュー・ジーランド			0.7	1.0	1.1	1.0	0.3	0.1	
	ノールウェー	*	*	1.5	4.4	8.1	13.1	6.9	3.3	
	スウェーデン		4.7	3.3	22.7	16.3	50.1	87.1	113.0	
	スイス	0.1	*	0.2	*	0.2	0.6	1.0	0.9	
	イギリス	0.7	1.1	0.1	0.4	0.4	0.3	*	2.1	
	米 国	418.0	428.0	540.0	405.0	597.0	152.0	1.0		
計		434.3	461.9	573.0	475.6	702.2	280.2	160.7	200.0	
国 際 機 関 (ネ ッ ト)	AP. D. F.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.			2.2	0.2	0.6	2.6	-0.1		
	CAR. D. B.									
	E. E. C.						10.3	5.7	13.9	
	I. D. A.									
	I. D. B.									
	O.P.E.C.									
S.A.A.F.A.										
U. N.	2.3	2.9	1.7	2.2	3.9	17.7	13.0	33.8		
計		2.3	2.9	3.9	2.4	4.5			47.7	
OPEC (二国間)							40.0	6.1		
合 計		436.6	464.8	576.9	478.0	706.7	350.0	185.4	247.9	

③ 技術協力

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977
二 国 間 援 助 (ネ ッ ト)	オーストラリア	2.0	1.3	1.1	1.3	1.4	1.5	1.1	1.5
	オーストリア					*	0.1		*
	ベルギー	0.1	*	0.1	2.9	2.5	2.8	2.6	0.1
	カナダ	0.8	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1		
	デンマーク	*	*	*	*	0.1	*		0.1
	フィンランド					0.2	*	0.4	0.4
	フランス	3.0	3.3	3.5	5.6	3.0			
	西ドイツ	0.3	0.2	0.3	0.9	0.9	0.8	0.8	0.9
	イタリア	*	*		*	*	*	*	0.2
	日本	0.7	1.0	1.0	1.3	1.8	1.3	0.7	0.8
	オランダ	0.4	0.4	0.5	0.2	0.4	0.8	0.2	0.2
	ニュー・ジーランド			0.4	0.6	0.6	0.2	0.2	0.1
	ノールウェー	*	*		*	*	0.1	0.1	0.3
	スウェーデン			0.2	0.8	*	8.1	8.5	20.8
	スイス	*	*	*	*	*	*	*	*
イギリス	0.5	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	*	0.2	
米 国	120.0	111.0	95.0	101.0	28.0	24.0			
計	127.8	117.6	102.4	115.1	39.2	40.0	14.6	25.6	
国際機関 (ネ ッ ト)	A.F.E.S.D.								
	E.E.C.								
	I.D.B.								
	O.A.P.E.C.								
	S.A.A.F.A.								
	U.N.	2.3	2.9	1.7	2.2	3.8	16.6	5.3	3.8
計	2.3	2.9	1.7	2.2	3.8	16.6	5.3	3.8	
合 計	150.1	120.5	104.1	117.3	43.0	56.6	19.9	29.4	

③ 共産圏諸国からの開発援助受取額

単 位	1954年～1971年	1972	1973	1974	1975	1976	1977
100万 ド ル							

④ 政府貸付

単位：100万ドル

区分	国名	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	
一 国 間 援 助 (ネ ッ ト)	オーストラリア									
	オーストリア									
	ベルギー									
	カナダ									
	デンマーク							0.1	11.1	0.3
	フィンランド							2.5	1.1	0.8
	フランス	-0.2		-1.8		1.7	5.3	1.3	10.6	
	西ドイツ	0.2	1.1	-0.1	-0.5	-1.2	-0.5			
	イタリア									
	日本	-1.5	4.5	3.8	7.2	28.2	8.8			
	オランダ									
	ニュー・ジーランド									
	ノールウェー									
	スウェーデン									
	スイス									
イギリス				0.2	0.2	*				
米 国			64.0	112.0	216.0	26.0	1.0	*		
計	-1.5	5.6	65.9	118.9	244.9	42.2	14.5	11.7		
国際機関 (ネ ッ ト)	A.F. D. F.									
	A.F.E.S.D.									
	AS. D. B.			2.2	0.2	0.6	2.6	-0.1	*	
	CAR. D. B.									
	E. E. C.									
	I. D. A.									
	I. D. B.									
O.P.E.C.										
S.A.A.F.A.										
計			2.2	0.2	0.6	2.6	-0.1			
OPEC (二国間)										
合 計	-1.5	5.6	68.1	119.1	245.5	44.8	14.4	11.7		

ヴ
イ
エ
ト
ナ
ム

(4) わが国の二国間経済協力

① 年別、援助形態別、経済・技術協力（DACベース）

単価：1,000ドル

援助形態 年	政 府 開 発 援 助					その他政府資金及び民間資金の流れ			総 合 計
	贈		与 計	政府貸付	計	直接投資等	輸出信用	計	
	無償資金協力	技術協力							
1960	867	51	898		898				898
1961	12,336	28	12,364	5,096	5,460				15,460
1962	13,546	100	13,646	3,669	7,315	17		17	17,332
1963	6,754	119	6,876	192	7,068				7,068
1964	6,764	88	6,852	-990	5,862				5,862
1965	216	100	316	-1,000	-684		2,005	2,005	1,321
1966	200	166	366	-1,000	-634				-634
1967		496	496	-1,000	-504	10	-1,503	-1,293	-1,797
1968		467	467	-996	-529		-724	-724	-1,253
1969		780	780	-500	280	520		320	600
1970	630	640	1,270	-1,470	-180	70		70	-110
1971	3,190	980	4,170	4,480	8,650	1,820		1,820	10,470
1972	6,680	1,050	7,730	3,780	11,510	370		370	11,880
1973	9,520	1,320	10,840	7,150	17,990	900		900	18,890
1974	24,580	1,850	26,430	8,200	54,630	490	-980	-490	54,140
1975	7,190	1,260	8,450	8,830	17,280	350	880	1,230	18,510
1976	27,660	720	28,380		28,380	-340	-1,090	-1,430	26,950
1977	11,720	820	12,540		12,540	2,030		2,030	14,570
1978	19,480	1,190	20,670	7,840	28,510	59,420		59,420	87,930
合 計	151,336	12,225	163,561	60,281	223,842	65,457	-1,212	64,245	288,087

② 直接借款（1979年12月末現在）

No.	事 項	根 拠 協 定	金 額 (百万円)	対 象	返済期間(年) (内は据置期間)	金 利(%)	貸出機関	備 考	G・F (%)
	円 借 款	1959. 5. 13 交換公文	2,700	ダニム水力発電所計画	10 (3)	5.75	輸 銀	ク イ フ	19.10
	円 借 款	1970.12.16 交換公文	1,620	ディーゼル発電所計画	10 (3)	6.0	輸 銀	ク イ フ	17.91
	円 借 款	1971. 9. 18 交換公文	5,760	カントー火力発電所計画	25 (7)	3.0	基 金	ク イ フ	52.68
	円 借 款	1972. 2. 26 交換公文	2,030	首都圏電話拡充計画	25 (7)	3.0	基 金	ク イ フ	52.68
	円 借 款	1972.11.29 交換公文	1,070	ダラト・カムラン間送電線計画	25 (7)	3.0	基 金	ク イ フ	52.68
	円 借 款	1974. 3. 30 交換公文	8,250	原材料、消費財、機械、設備	30(10)	2.75	基 金	LDCアンタイド	59.75
	円 借 款	1975. 3. 28 交換公文	9,000	原材料、消費財、機械、設備	30(10)	2.75	基 金	LDCアンタイド	59.75
	円 借 款	1978. 7. 7 交換公文	10,000	商品借款	30(10)	2.75	基 金	一般アンタイド	59.75

ウ
イ
エ
ト
ナ
ム

③ 延払い信用枠（クレジット・ライン）

対象	成立年月	金額(百万ドル)	金 利 (年利) %	返済期間(年)	備 考
経済開発借款	1959. 5	9.1	通常の商業ベース	長 期	当分の間使用を中止

④ 無償資金協力（1979年 9月末現在） 交換公文ベース

イ) 賠 償

(カッコ内は億円) 単位: 100万ドル

交換公文締結日	総 額	供 与 期 間	年間供与額	契約認証総額	支払済額	義務履行率(%)	備 考
1959. 5. 13	39 (140.4)	1960. 1. 12~ 65. 1. 11	10(56) ※ 4.5(16.2)	38.6 (153.9)	39 (140.4)	100	1965年1月11日終了、日本、ヴィエトナム賠償協定 ダニム発電所、ボール紙工場、合板工場等の各種プラント類関係資機材

*最後の2年間

ロ) 一般無償協力

単位: 100万円

年度	締 結 日	案 件 名	金 額
70	1970. 4. 18	サイゴン市難民用住宅・診療所用医療機材	240
	1970. 10. 17	ダニム水力発電所修復(鉄管路及び付帯土木工事)	300
71	1971. 10. 2	ダニム水力発電所修復()	688
	1971. 11. 27	孤児職業訓練センター建設	220
	1971. 12. 24	チョウライ病院用医療機材	200
72	1973. 2. 9	孤児職業訓練センター拡充	272
	1973. 8. 22	チョウライ病院用医療機材	100
73	〃	ダニム～サイゴン間送電線修復工事用資機材	288
	1973. 10. 3	難民用住宅建設・農具	500
	1974. 2. 13	孤児職業訓練センター訓練用機材	90
	1974. 3. 30	難民再定着用医薬品・住宅建設資材等	5,000
〃	〃	ダニム～サイゴン間送電線修復	42
74	1974. 7. 4	チョウライ病院用医療機材	540
	1974. 8. 19	チョウライ病院(本館建物)	4,100
	1975. 1. 28	チョウライ病院(附属建物)	500
	〃	チョウライ病院用医薬品等	100
75	1975. 10. 11	経済復興開発用機材(ブルドーザー、トラック、掘削機)	8,500
76	1976. 9. 14	経済復興開発用機材(セメント工場)	5,000
78	1978. 4. 28	民生用資機材供与	4,000
	合 計		50,680

ハ) 文化無償協力

単位: 100万円

年度	締 結 日	案 件 名	金 額

二) KR食糧援助

備考: (建値) \$=米ドル 両=南越(円及びドル)

年度	締 結 日	案 件 名	建 値	金額(100万円)	金額(1000ドル)
70	1970. 6. 9	農 業 物 資	両	360	1,000

ホ) 拠出金、災害救済等

単位: 百万円

年 度	支 出 月 日	内 容	金 額
78	1978. 11. 21	防虫剤、カンズメ、粉ミルク、綿布等	100

⑤ 技術協力 (DACベース)

イ) 年別, 形態別技術協力

単位: 1,000ドル

年	形態	研修員受入		留学生受入		専門家派遣		調査団派遣			協力隊派遣	研究協力	機材供与	その他	技術協力総経費			
		金額	人数		金額	人数	金額	人数		金額					人数		合計	内ICA分
			全体	IS/JICA分				全体	IS/JICA分						全体	IS/JICA分		
1976		348.13	92	13	322.24	50	8.19							11.14	720.61	120.22		
1977		500.23	106	10	34	311.69								9.83	1,821.71	88.85		
1978		681.10	106	4	39	434.18			5.74	3	1			49.25	1,196.72	129.53		
1979													26.35					

グ
イ
エ
ト
ナ
ム

ロ) 国際協力事業団技術協力実績 (DACベース, 1975年~1978年)

ア) 事業形態別経費実績

単位: 1,000円

年(暦年)	項目	合計	研修員受入	専門家派遣	調査団派遣	研究協力	機材供与	協力隊派遣(学生)	その他
1975		153,782	53,625	39,782	12,437		40,129		7,729
1976		35,651	22,799	2,428	7,292		71		5,061
1977		23,857	22,576						1,281
1978		6,578		20	602		5,358		598
1979									

イ) 分野別研修員受入

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education	Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning			Construction	Others						
1975		38	1	4	3	5		3			22	2		178.3
1976		13				1		1			11			142.1
1977		10				1		1			8			54.9
1978		4				1		1			2			32.0
1979														

ロ) 分野別専門家派遣

年(暦年)	項目	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Industry		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
			Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975		21		1		9					1	6	4		80.4
1976															
1977															
1978															
1979															

① 分野別調査団及び顧問派遣

項目 年(西暦)	総人数	Planning & Administration		Public Utilities	Agriculture	Indust		Trade	Education		Health Services	Social Services	Multi-Sector Unspecified	Man-Months Total
		Public Administration	Economic Planning			Construction	Others		Teachers	Others				
1975	8		1			3				4				5.4
1976	8				8									6.4
1977														
1978	1		1											0.5

ヴ
イ
エ
ト
ナ
ム

III 一般事情

① 開発計画

第1次開発5ヶ年計画(1961~64年)

戦争激化のため1964年で中断

第2次開発5ヶ年計画(1976~1980年)

基本目標

- (イ) 農林漁業、食品工業と軽工業を奨励させ生活必需品の需要の充足を図る。
- (ロ) 機械工業を中心とする重工業を奨励させ、農林漁業部門及び軽工業部門の利用を促進する。
- (ハ) 労働力の活用、労働生産性の向上を図り、地域、部門間の労働力を再配置する。
- (ニ) 輸出の発展を図る。農産品、軽工業品を含め多様化する。
- (ホ) 教育、文化、医療を奨励させる。

個別目標

経済成長率 年平均 14~15%

国民所得 年平均 13~14%

農業部門8~10% 工業部門16~18%

投資支出配分 農業約30% 工業35% 輸送サービス25%

② 年間気温

*サイゴン地方 年間気温表

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
温度 ℃	最高	32.9	35.0	35.4	36.8	36.5	34.1	34.3	33.6	33.3	33.0	32.6
	最低	17.8	18.4	20.6	22.8	22.4	22.7	21.7	21.8	21.5	21.0	17.4
	平均	24.9	25.9	27.1	28.6	28.2	27.3	27.4	27.1	27.3	26.5	25.8
降雨日数	-	2	5	4	23	23	22	27	23	23	12	10

(海外生活の手引)

③ 教育

(イ) 普通教育(1975~1976)

学校数 21,129

クラス数 223,661

教員数 275,100

生徒数 9,280,000

(ロ) 高等教育

大学数 43(北部ヴェトナム、37校)

④ 医療(1975年)

(イ) 医療施設

病院、診療所、保健所、合計 1,637

看護所 10,467

ライ病治療院数 45

(ロ) 医療公務員

医師 35,450

看護婦 55,954

助産婦 14,917

薬剤師 5,587

薬剤助手 9,009

⑤ 労働事情

不明

⑥ 祝祭日

1月1日 元旦

2月17~19日 (1977年) 旧正月(陰暦12月30日~1月2日)

5月1日 メーデー

9月2~3日 独立記念日

⑦ 電 気 事 情

地 域	周波数	相数	電圧	配線数	電気時計 の使用
Ban Me Thuot (Sic) バン・メト	a.c. 50	1.3	250/380	2.4	不 可
Can Tho カント	a.c. 50	1.3	{ 120/208 220/380 }	2.4	
Dalat グラート	a.c. 50	1.3	127/220	2.4	
Da Nang (Tourane) ダナン	a.c. 50	1.3	127/220	2.4	
Hue ユエ	a.c. 50	1.3	127/220	2.4	
Khanh Hung (Soc Trang)	a.c. 50	1.3	220/380	2.4	
Nha Trang ナ・トラン	a.c. 50	1.3	127/220	2.4	
Saiqon-Cholon サイゴン・ショロン	a.c. 50	1.3	{ 120/208 220/380 }	2.4	

1. 二次配線のニュートラルワイヤーは接地している。
2. ヴィエトナムの電気設備は3相220/380V、4線と規格化が進められているが、もう数年かかる見込みである。

ヴ
イ
エ
ト
ナ
ム

ブルネイ

ブルネイ

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	1,662	3(1)	0	0	0	0	0	0	1,662	3(1)
2. 専門家・調査団										
(1) 専 門 家										
(2) 調 査 団										
3. 協 力 隊										
4. 機 材 供 与										
5. そ の 他										
合 計	1,662		0		0		0		1,662	

ブルネイ

(2) 形態別・分野別

形態	分 野																人数累計 (人)	経費累計 (千円)
	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他		
研修員受入	1												1			1(1)	3(1)	1,662
調査団派遣																		
専門家派遣																		
協力隊派遣																		
機材供与																		
そ の 他																		
合 計																		1,662

2. 事業別実績
 研修員受入事業

分 野 年 度	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉱 業	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	教 育	行 政	そ の 他	金 額
																		(千円)
39年度	1	1									1							915
46 "	1(1)																1(1)	300
47 "	1													1				417
39～合計	3(1)	1												1			1(1)	1,662

ブル
ネ
イ

香 港

1. 総括実績

(1) 形態別・年度別

形態	29-50		51		52		53		累 計	
	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)	経 費 (千円)	人 数 (人)
1. 研修員受入れ	11,132	34(21)	5,193	5	6,306	5	13,803	8	36,434	52(21)
2. 専門家・調査団										
(1) 専 門 家										
(2) 調 査 団										
3. 協 力 隊										
4. 機 材 供 与										
5. そ の 他										
合 計	11,132		5,193		6,306		13,803		36,434	

香
港

(2) 形態別・分野別

形態	分 野	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化 学 工 業	公 益 事 業	運 輸	郵 政	厚 生	原 子 力	経 営 技 術	教 育	行 政	そ の 他	人 数 累 計 (人)	経 費 累 計 (千円)
研修員受入		4					3			4		1(1)		4(3)		16(4)	20(13)	52(21)	36,434
調査団派遣																			
専門家派遣																			
協力隊派遣																			
機材供与																			
その他																			
合 計																			36,434

2. 事業別実績
研修員受入事業

香 港	分野	計 (人)	農 業	水 産	建 設	重 工 業	鉄 業	軽 工 業	化学 工業	公益 事業	運 輸	郵 政	厚 生	原子 力	経営 技術	教 育	行 政	そ の 他	金 額 (千円)
	年 度																		
	33年度	1(1)																1(1)	
	35 "	1(1)													1(1)				
	36 "	3	3																
	42 "	1(1)											1(1)						
	43 "	1	1																
	44 "	1(1)															1(1)		
	45 "	3(3)													2(2)			1(1)	409
	46 "	3(3)																3(3)	630
	47 "	4(3)													1			3(3)	1,197
	48 "	6(3)															3	3(3)	
	49 "	4(4)															2(2)	2(2)	1,028
	50 "	6(1)						2									2(1)	2	7,868
	51 "	5						1			1						2	1	5,193
	52 "	5															3	2	6,306
	53 "	8									3						3	2	13,803
	33~合計	52(21)	4					3			4		1(1)		4(3)		16(4)	20(13)	56,454

4/20/20

4/20/20